

平成 30 年度
事業報告書

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

社会福祉法人 空知の風

目次

法人事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・	3 ページ
たのしいどう事業報告・・・・・・・・・・	20 ページ
きっちんどう事業報告・・・・・・・・・・	28 ページ
あかるいどう事業報告・・・・・・・・・・	38 ページ
わくわくどう事業報告・・・・・・・・・・	50 ページ
歩～夢 事業報告・・・・・・・・・・	56 ページ
楽しく事業報告・・・・・・・・・・	64 ページ
そらなび事業報告・・・・・・・・・・	65 ページ

平成30年度 法人事業報告

◇はじめに

～平成30年度事業の総括～

平成30年度は、障害福祉サービスの報酬改定が実施され、法人の経営の根幹である自立支援給付収入の安定確保のため、新規事業所（就労継続支援事業B型「わくわくどう」）の開設と企業との連携による事業振興策の推進により、利用者さんの仕事の確保や、工賃額の向上と経営基盤の強化に努めました。

また、今後の障がい福祉を取り巻く社会の動向や、現在ご利用中の方々のニーズ、将来的に利用が見込まれるニーズを検討し、中・長期的な事業計画を立てるべく引き続き議論を行ない、実施事業や設備、土地等の調査等を進めているところです。

継続的な課題として重点目標としていた人材確保、人材育成についても引き続き取り組みを進めております。平成30年度は次の4点を重点項目として挙げて取り組んで来ました。

1. 平成30年度障害福祉サービス報酬改定・制度改定への対応
2. 新規事業所（就労継続支援事業B型）の開設
3. 法人事業の中長期の計画策定
4. 職員の育成

1. 平成30年度障害福祉サービス報酬改定・制度改定への対応

平成30年度の障害福祉サービス報酬改定を受けて、法人事業の経営の根幹である自立支援費収入の試算の結果、平成29年度現在の障害福祉サービス事業を一部整理して行く必要性が生じました。法人の経営基盤を安定させ、支援の担い手である職員の雇用を安定させることにご利用の方へのきめ細かな支援を担保していきたいとの思いから、多機能型事業所の事業を再編し、「たのしいどう」で行なってきた就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援事業B型と生活介護事業に再編を行ないました。

2. 新規事業所（就労継続支援事業B型）の開設

平成30年10月を目標に新規事業所として就労継続支援B型事業所を開設する予定でありましたが、事業所物件の確保や必要な整備が難航し、実際には12月1日に就労継続B型事業所「わくわくどう」として定員20名で開設を迎えました。「わくわくどう」では、空知総合振興局5階で運営する「そらかぜ食堂」の事業と、企業内での付添就労など、施設外就労や工賃向上を目指す方への支援をメインとした事業所としてスタートを切りました。

3. 法人事業の中長期の計画策定

今後の障がい福祉を取り巻く社会の動向や、現在ご利用中の方々のニーズ、将来的に利用が見込まれるニーズを検討し、中・長期的な事業計画を立てるべく前年度より「事業再編検討委員会」を立ち上げて議論を進めてまいりました。平成30年度についても継続して建物設備の更新計画や、車両整備計画、新規事業の検討などを進めてまいりました。

4. 職員の育成

職員の人材育成については、現場での指導を通じた育成や、内外の研修参加を実施して来ました。また、国が推し進める「働き方改革」について、当法人でも労働環境の見直しを検討し、勤務時間の管理徹底に努め、業務内容の再点検を行ないました。依然として人材確保は厳しい状況が続きますが、勤怠管理や有給休暇の取得など現在勤めている職員の労働環境を充実させ、継続して職員の確保と育成を継続的に取組んで参ります。

■役員会運営

平成30年度は理事会を4回開催しました。事業計画に従い、年度途中からの就労継続B型事業所の新規開設に向け、物件の選定や設備整備の計画などを検討しました。

また、岩見沢市ロータリークラブおよび青少年育成事業インターアクトクラブからの要請により「子ども食堂」の実施について学習と検討が行なわれ、平成31年度（2019年度）の事業計画で実施することを決定しました。また、2月に岩見沢市による社会福祉法人指導監査が実施され、口頭指摘と助言があったことについて、今後の対応等を協議しました。

その他の法人運営に係る理事会運営についても予算執行や各議案について活発かつ慎重な審議を行ない、事業運営を滞りなく実施する事が出来ました。なお、入札等の案件は発生しておりません。

評議員会は定時評議員会のみ1回の開催でした。事業報告や決算の承認、福祉充実残額の計算等が行なわれました。

監事監査については、四半期毎に会計監査、運営監査を実施し、実務上の改善事項について助言を頂き運営改善に繋がっております。2月に岩見沢市による社会福祉法人指導監査がありました。文書指摘はありませんでしたが、口頭指摘が数点ありました。監事とも今後の改善に向けた方策を検討し、より適切な法人運営に取り組んでまいります。

法人経営と会計については、社会福祉法人会計に長けた会計士事務所による外部監査も継続しています。法人改革の重点項目である財務規律の強化の面で、社会福祉充実残額の適切な計算と、法人の財産を地域社会に役立てる方策なども検討をしています。

○理事会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況	
			理事	監事
第1回 理事会	平成30年5月25日（金） 16時00分～17時30分 社会福祉法人空知の風 本部1階会議室	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度事業報告の承認 平成29年度決算の承認 新規事業所の立ち上げについての承認 役員報酬規程の変更 旅費規程の変更 	6	2
第2回 理事会	平成30年8月29日（水） 15時00分～17時00分 社会福祉法人空知の風 本部1階会議室	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業所の開設（場所の選定等）の承認 新規事業所施設長の選任 新規事業所就労機器整備の承認 規程（管理規程・経理規程）の変更 新規事業所に係る予算の承認 あかるいどう就労機器整備の承認 補正予算の承認 	6	2
第3回 理事会	平成30年12月22日（土） 15時00分～17時00分 社会福祉法人空知の風 本部1階会議室	<ul style="list-style-type: none"> 補正予算の承認 新規事業所（わくわくどう） 非常災害計画の制定 子ども食堂実施に向けた計画の承認 	6	2
第4回 理事会	平成31年3月15日（金） 15時00分～17時00分 社会福祉法人空知の風 本部1階会議室	<ul style="list-style-type: none"> 補正予算の承認 指定特定相談支援事業 「そらなび」休止の承認 利益相反取引の承認 平成31年度事業計画の承認 平成31年度予算の承認 子ども食堂実施計画の承認 	6	2

○評議員会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			評議員	理事	監事
定時	平成30年6月9日（土） 15時00分～17時00分 社会福祉法人空知の風 本部2階多目的室	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度事業報告の承認 平成29年度決算の承認 福祉充実残額の計算の承認 決算監事監査報告 役員報酬規程の変更 	7	4	2

■監査等の状況について

○監事監査の実施状況について

	日時	対象期間	担当監事	
			業務	会計
平成29年度第4期	平成30年5月14日（月） 14時00分～17時00分	平成30年1月1日から平成30年3月31日	堀 監事	小嶋 監事
平成29年度決算	平成30年5月14日（月） 14時00分～17時00分	平成29年4月1日から平成30年3月31日	堀 監事	小嶋 監事
平成30年度第1期	平成30年11月12日（木） 13時30分～16時30分	平成30年4月1日から平成30年6月30日	堀 監事	小嶋 監事
平成30年度第2期	平成30年12月11日（火） 14時00分～17時00分	平成30年7月1日から平成30年9月30日	堀 監事	小嶋 監事
平成30年度第3期	平成31年2月25日（月） 14時00分～17時00分	平成30年10月1日から平成30年12月31日	堀 監事	小嶋 監事

○外部監査の実施状況について（よつば会計事務所）

	日時	対象期間	内容
第1回	平成30年5月9日（水） 10時00分～19時00分	平成29年4月1日から平成30年3月31日	29年度決算書 および明細書確認
第2回	平成30年7月26日（木） 10時00分～18時00分	平成30年4月1日から平成30年6月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第3回	平成30年10月30日（火） 9時30分～18時45分	平成30年7月1日から平成30年9月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第4回	平成31年1月28日（月） 9時40分～19時00分	平成30年10月1日から平成30年12月31日	各科目残高確認 収支状況の確認
第5回	平成31年3月25日（月） 10時00分～18時00分	平成30年度全般	30年度決算準備 就労事業経理

○岩見沢市による社会福祉法人指導監査について

日時/会場	指摘事項	出席状況	
		市	法人
平成31年2月1日（金） 9時30分～16時30分 社会福祉法人空知の風 本部1階会議室	・文書指摘事項なし ①評議委員会の決議に特別な利害関係を有する評議員が含まれているか確認をされていない。（口頭指摘） ②理事会についても同様。（口頭指摘） ③議事録に作成者の記載がない。（口頭指摘） ④理事、監事の選任について、一定事項の確認があいまいである。（口頭指摘）	2名	橘常務理事 松田事務局長 五十嵐事務主任 堀監事 小嶋監事

○苦情解決委員会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			管理者	受付担当者	第三者委員
平成29年度 総括	平成30年4月27日（金） 17時00分～19時00分 社会福祉法人空知の風 本部1階会議室	・29年度各事業所ごとの苦情受付状況報告 ・第三者委員からの意見 ・30年度苦情解決体制の確認 ・権利擁護、虐待防止に向けて	3	6	3

■施設整備等について

主な施設・事業所の整備としましては、グループホーム用の住居として中古物件1棟を購入・リフォームしてグループホーム「みないい荘」を整備し、4月1日より開所いたしました。法人設立以来初めて法人所有のグループホームとなります。また、同建物に職員用住宅を1世帯分整備しました。今後の雇用促進や定着、福利厚生として活用をしていく予定です。

12月には新たな日中事業所として「わくわくどう」を開設いたしました。就労継続B型事業所として、そらかぜ食堂運営や外部企業への付き添い就労支援などを中心に活動を行なっています。

機器整備としては、「あかるいどう」と「わくわくどう」で新たにおしぼりクリーニングの企業下請けを行なうために大型の作業機械をリースで導入しています。また、「たのしいどう」ではパン工房の冷凍冷蔵庫の機械の更新をリースで行なっています。

車両についても老朽化で故障や傷みも著しい状態であるため、順次入れ替えを行なっています。当法人の建物や車両、作業設備等については依然として経年劣化したものが数多くありますので次年度以降についても引き続き整備を進めてまいります。

◇建物整備

①グループホーム「みないい荘」および2階職員住居の整備

改修費用（平成30年度支払い分） 5,790,420円



②就労継続支援事業（B型）「わくわくどう」の整備

岩見沢市大和3条5丁目の物件を賃借

内部改修と備品整備費用 合計 2,087,454 円



◇機器整備

①「あかるいどう」おしぼり巻・包装機の整備（リース契約）

おしぼりクリーニング企業からの受託業務用に業務用機械を整備しました。

価格：1,000,000 円（税別）を2台 計：2,000,000 円（税別）

※リース 32,300 円／月（6年・72回）（税別） 総額 2,325,600 円



②「わくわくどう」おしぼりゴミ取り用機器・タンブラー（リース契約）

おしぼりクリーニング企業からの受託業務用に業務用機械を整備しました。

機械費用：2,065,000 円（税別）

※リース 33,500 円／月（6年・72回）（税別） 総額 2,412,000 円



③パン工房春いろ冷蔵冷凍庫リース

経年劣化等による故障により急遽リース機器の入れ替えを行なっています。

冷蔵冷凍庫 (HRF-180AF) 6年メンテナンス付きリース

※リース総額 1,197,504 円 (税込み)



◇中古車両の購入 (老朽化した送迎用車両の入れ替え)

①トヨタヴォクシー (黒)	平成 19 年式 8 人乗り 4WD	購入費用	1,200,000 円
②トヨタノア (黒)	平成 19 年式 8 人乗り 4WD	購入費用	1,000,000 円
③トヨタノア (白)	平成 19 年式 8 人乗り 4WD	購入費用	900,000 円
②トヨタノア (銀)	平成 21 年式 8 人乗り 4WD	購入費用	1,000,000 円

■事故報告の状況について

利用者さんに係る事故

①支援時間中の重大な負傷等 0 件

車両による事故件数

①人身事故 0 件

②単独接触事故 8 件 (雪壁への接触、施設・建物への接触等、けが人なし)

③他の車との接触事故 2 件 (交差点での衝突、駐車車両への接触等、けが人なし)

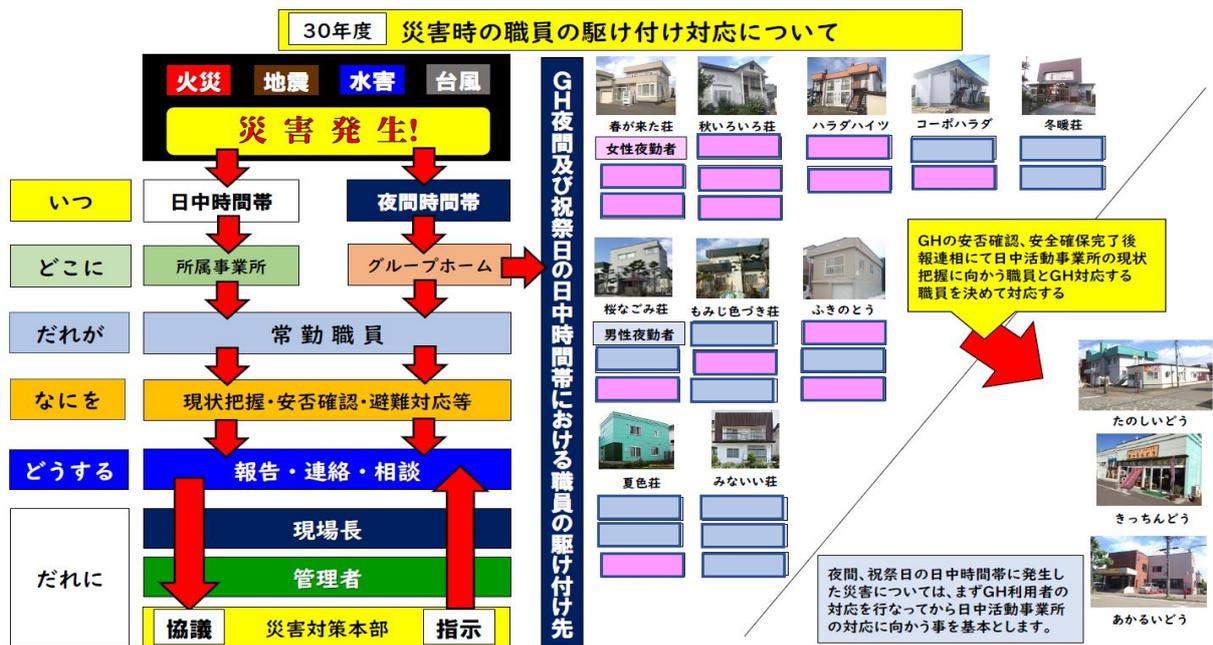
■北海道胆振東部地震及び全道停電時の対応等について

9月6日未明に発生した「北海道胆振東部地震」とその直後の全道的な停電については、当法人利用者、職員他関係者への人的被害や建物被害はありませんでした。以下に当法人の対応について報告します。

(概要)

- ・ 9月6日未明地震発生直後に主要職員が集合し、各施設点検とグループホーム入居者全員の安否を確認。
- ・ 6日7日8日の通所受け入れを休止することを決定し、各家庭へ連絡。
- ・ パート職員の出勤は自宅待機とした。
- ・ GH入居者は全員「たのしいどう」へ避難し、常勤職員の特別体制を編成して生活上の支援を行なった。
- ・ 停電への対応はホームセンターで発電機2台を購入し、元から所有していたものを含

- めて発電機3台で、食材ストックの冷蔵や冷凍、夜間の明かりなどに使用した。
- ・発電機の燃料であるガソリンの確保については携帯電話などで情報を共有しながら市内のガソリンスタンドに並んで組織的に対応した。
 - ・「あかるいどう」の電気が復旧したため、7日夕より男性支援を「たのしいどう」、女性支援を「あかるいどう」とした。
 - ・その他順次 GH 住居の電力も回復し、すべてのブレーカー、コンセントを確認しながら電力復旧の確認をした。
 - ・7日23時過ぎに「きっちんどう」の電力が復旧し、法人内すべての電力が復旧した。
 - ・10日月曜日から通所受け入れを再開することを決定し、各家庭に連絡。
 - ・GH 入居者は余震への備えのことから、10日朝まで避難生活を継続した。
 - ・10日以降は通常の体制にて再開。
 - ・避難生活中はスタッフ付添いで買い物に出かけたり、復旧した建物へ入浴へ連れて行ったりして避難中のストレス軽減に努めた。
 - ・今後について地震など災害時の見回り巡回の再編や災害備蓄品の見直しなどを行なった。



■行事の実施状況について（各施設・事業所合同）

日時	行事名
平成30年 4月 2日	事業開始式
平成30年 7月 1日	第7回地域交流祭※法人行事
平成30年10月 6日	第7回レクリエーション大会
平成30年11月 9日～10日	利用者研修旅行1班(ニセコ方面)
平成30年11月16日～17日	利用者温泉旅行2班(層雲峡方面)
平成30年12月24日	利用者大忘年会
平成30年12月22日	法人忘年会※法人行事
平成31年 1月11日	新成人のお祝い会



事業開始式



地域交流祭



レクリエーション大会





利用者温泉旅行（ニセコ）



温泉旅行（層雲峡）



利用者忘年会



成人のお祝い会

■ 渉外活動（平成 30 年度）

渉外活動	職 名	氏 名
空知知的しょうがい福祉協会	理 事	橘
	代表者	TD 竹治・KD 林・AD 橘 WD 横田・HM 松田
	幹事	廣岡・中山
・岩見沢市障がい者福祉施策懇話会 ・岩見沢市障がい者サポート協議会	委 員	橘
日本知的障害者福祉協会 生産活動・就労支援部会全国大会	実行委員	橘・横田
全国社会就労センター協議会 事業振興委員会	委 員	橘
北海道社会就労センター協議会 事業振興委員会	委 員	横田
北海道知的障がい福祉協会 運営研究委員会	委 員	松田

■ 苦情解決委員会および虐待防止委員会について

30年度の苦情件数2件 要望件数5件 その他日常に生じる相談多数

出席者：各事業所の苦情担当者（廣岡理絵・廣岡拓・山本・成田・横塚・中山・倉増）

各事業所の苦情解決責任者（橘・松田）

第三者委員（小松委員・小嶋委員・藤田委員）

会議概要：

事業所ごとに苦情や要望の受付件数や、具体的な相談ケースを報告しています。利用者さん同士のトラブルに関することや、スタッフのかかわり方に関する要望などが見られました。その他日常で利用者さんたちが感じる疑問などへの質問も寄せられております。今年度は特定の支援スタッフを誹謗中傷する内容が書かれた投函があり、苦情受付箱の適切な使い方の説明を改めて行なっています。

第三者委員からは、苦情や要望が「苦情箱」に入っているもの以外でもトラブルは起きることから、利用している方たちに内在する不満や想いについて如何に気付き、どう接するかが大切との話や、ご本人の求める支援と現実可能な支援についてはお互いの相互理解が必要ではないかとの意見が出されました。

また、虐待防止の観点からは職員のメンタル面の負担軽減など職員にも気持ちに余裕が無ければ、接し方や声掛けにも影響が出てしまいがちであるとの助言もいただきました。権利擁護や虐待防止の取り組みとして、当法人で行なっている権利擁護委員会の年間の活動についての報告と、内部研修の取組について、また北海道知的障がい福祉協会の署名活動や、空知知的しょうがい福祉協会の権利擁護活動への参加、内部や外部の研修への参加を報告しています。



■各部門報告

□事業振興部門

利用者の工賃向上のために新規作業種開拓に向けた取組を行なっています。熱帯魚水槽の維持管理や、札幌のリサイクル業者との受託事業、冬場の除排雪の受託など、法人全体として協働し、利用者の仕事としてつながるように取り組みました。

①北海道クリーンアクトとの連携による仕事の創出

北海道クリーンアクトと協議を進めて、施設外就労の拡充として、おしぼりの分別作業の業務を受託しました。作業設備や作業環境の整備、従業者の出向や人員の確保等について整備を進め、6名の利用者が「わくわくどう」の所属で北海道クリーンアクトへ施設外就労に挑戦中です。

また、北海道クリーンアクトで実施しているおしぼり巻の作業を施設内で行なえる作業として、「あかるいどう」に機械の設置と作業環境を整備して4名の利用者が仕事に取り組んでいます。引き続き北海道クリーンアクトと協議を重ねて、連携をさらに強化し作業環境と事業振興策を進めていきたいと考えています。



おしぼり分別作業（クリーンアクト内）



おしぼり巻作業（AD）



②観賞用熱帯魚のメンテナンス業務

観賞用熱帯魚のメンテナンス業務や設置営業に向けて、(株)水仙のバックアップを受けて、熱帯魚の水槽設置業務を実施しました。9月には、「たのしいどう」に水槽を設置して、熱帯魚（海水魚・淡水魚）のメンテナンス業務を「あかるいどう」に委託し、飼育方法やメンテナンスの学習と経験を重ねました。業務内容や飼育が安定してきた段階で、他の施設や企業等に営業し設置メンテナンスの業務を新規事業の科目として検討していきたいと考えています。



熱帯魚水槽設置作業



たのしいどう設置の水槽

③リサイクル分解作業等の実施

(有)河井商店と連携し、パソコン用ハードディスクの分解作業に加えてガスメーターの分解作業の受託、リサイクル用品の分解分別作業、医療用廃棄物のスタンド組立作業等を実施しました。実施可能な作業を選定し作業種の確保に向けて引続き取り組みます。



医療用廃棄物スタンド組立作業



ガスメーター分解作業

④除排雪の請負業務

冬期間の除雪排雪用に整備したタイヤショベルとダンプを利用して、市内3件から除雪排雪の依頼を受けました。近隣であれば対応可能な範囲で今後も受託していきます。



除排雪作業の様子

□内需拡大部門について

日本全国の障がい者施設のネットワークでお互いに製品を流通させることで、販路や販売数が拡大して売り上げの向上につながる取り組みを「内需」と表現して取り組みを行なっています。30年度は45法人、74事業所、3団体と取引を行なっています。

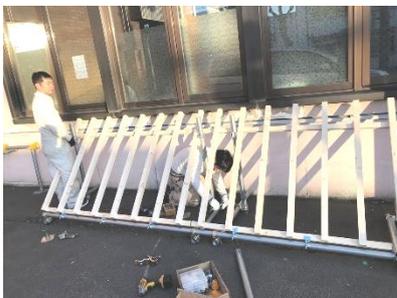
□企業就労支援

一般企業に雇用されている利用者さんについても、グループホームのスタッフが中心となり、企業へ訪問して近況を確認したり、本人から聞き取りを行なったりしています。労働関係の制度なども変化していきますので、情報共有なども合わせて行なっています。

□環境部門

事業所やグループホームの住居など、老朽化した建物の修繕や、壊れてしまったり不便な個所を知恵を絞って自分たちで修繕を行なっています。

●環境整備の様子



自転車置き場の設置



ブロック塀のコンクリート補修



スロープの製作



食堂床、壁の補修



職員室の壁補修



カフェの外装製作

■給食提供部門

日中の事業所とグループホームの献立担当者が定期的に会議を行ない、メニューの情報共有や仕入れの調整を行ないました。また、内需拡大部門から情報を得て、他の法人事業所の食品をメニューに取り入れ、お楽しみメニューとして提供しました。

■医務部門

利用者の健康状態や服薬状況を把握し、食事ごとの服薬がある方への支援を行なっています。また、毎週体重測定を実施し健康状態の把握に努めています。年1回健康診断では総合的な健康状態を調べています。職員についても健康診断を年1回実施（夜勤対象者は年2回）しています。40歳以上の常勤職員については人間ドックの受診を推奨しています。

■役員・職員 研修参加について

□視察研修

平成30年8月7日 クリーニング事業を実施している仲間の施設、工場を役員2名で視察し、取組や設備等について研修した。今後の事業展開に参考となる視察となりました。



□視察研修受け入れ

三重県知的障害者福祉協会御一行が平成30年11月7日に空知の風を取組みを視察されました。各事業所の取組みと「きっちんどう」の仕出しを食事されました。



□全国生産活動就労支援部会の見本市

今年度も日本知的障害者福祉協会の就労支援部会の取組みである商品見本市・物産展に出店しました。新商品の販売や他の事業所とのネットワーク強化に取り組みました。



□新任職員研修

新任の職員研修や定期的に内部研修を実施して、職員の知識や支援上の意識向上に努めました。

□内部研修



□外部研修の参加状況

日 時	研修名	主 催	場 所	参加人数
4/6	空知知的しょうがい福祉協会総会・理事会	空知知的しょうがい福祉協会	深川市	3 名
4/11	幹事会研修会	空知知的しょうがい福祉協会	深川市	2 名
5/2	食品表示に関する研修会	北海道障がい者就労支援センター	札幌市	3 名
5/21～22	平成30年度全道施設長セミナー	北海道障がい者就労支援センター	札幌市	3 名
5/15～17	北海道サービス管理責任者	特定非営利活動法人きなはれ	札幌市	1 名
6/20	職員研修会	空知知的しょうがい福祉協会	美唄市	2 名
6/19～20	北海道サービス管理責任者研修	特定非営利法人北海道地域ケアマネジメントネットワーク	北海道	1 名
7/2～3	全国知的障害関係施設長等会議	日本知的障害者福祉協会	東京都	3 名
7/12～13	全国社会就労センター総合研究大会	全国社会福祉協議会	青森県	3 名
6/27～28	北海道社会就労センター協議会職員研修会	北海道社会就労センター協議会	札幌市	2 名
7/14	全道相談支援・地域支援等職員研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	1 名
7/25～26	防火管理講習	北海道消防設備協会	岩見沢市	1 名
8/23	栄養士・調理員従事者研修会	空知知的しょうがい福祉協会	美唄市	2 名
8/8	権利擁護セミナー	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	2 名
9/14	親なきあとセミナー	北海道知的障がい児者生活サポート協会	岩見沢市	1 名
9/27～28	利用者の工賃向上と就労支援を考える研修会(in旭川)	北海道社会就労センター協議会	旭川市	3 名
10/17～18	全道知的障がい関係職員研究大会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	4 名
10/25～26	権利擁護伝達研修会	空知知的しょうがい福祉協会	沼田町	1 名
11/5～6	地域支援セミナー	日本知的障害者福祉協会	千葉県	1 名
11/6	災害対策研修会	空知知的しょうがい福祉協会	砂川市	2 名
12/6～7	北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修	北海道保健福祉部	札幌市	1 名
12/3	働く人を支える～いきいきと働くために～	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	2 名
1/17	幹部職員研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	1 名
1/21～22	障害者就労支援施設の食を通じて新しいビジネスネットワークを考える実践研修会	食ものネットワーク事務局	香川県	3 名
2/18～19	全国生産活動・就労支援部会職員研修会	日本知的障害者福祉協会	東京都	3 名
3/5～6	北海道社会就労センター協議会 施設長・職員研修会	北海道社会就労センター協議会	札幌市	4 名

※研修参加回数 44 回

※役員・職員参加人数 55 名 (延べ人数)

■利用者現況調べ（平成31年3月31日現在）

① 年齢構成（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	合計人数
男性	4	31	17	10	5	2	0	69
女性	1	16	9	9	1	0	0	36
総数	5	47	26	19	6	2	0	105

平均年齢：男性 32.68歳、女性 32.22歳、全体 32.3歳

②障害支援区分

	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
男性	18	2	13	19	12	3	2	2.32
女性	5	0	4	10	10	4	3	3.22
総数	23	2	17	29	22	7	5	2.63

■工賃の支払い状況（単位：円）

①工賃支給比率

事業名	資金収入額(円)	工賃総額(円)	支給人数(人)	支払比率
たのしいどう	34,978,156	11,445,900	45人	32.7%
きっちんどう	24,970,565	9,444,500	24人	37.8%
あかるいどう	7,625,756	5,904,300	28人	77.4%
わくわくどう	3,928,335	1,950,200	14人	49.6%
全事業合計	71,502,812	28,744,900	111人	40.2%

②利用者工賃額

事業名	工賃総額(円)	支給人数	平均工賃額	うちB型のべ 工賃支給人数	うちB型事業平均
たのしいどう	11,445,900	45人	23,796	303人	27,057
きっちんどう	9,444,500	24人	34,343	215人	35,674
あかるいどう	5,904,300	28人	20,526	156人	27,901
わくわくどう	1,950,200	14人	34,825	56人	34,825
全事業合計	28,744,900	111人	28,373	730人	30,372

平成30年度 たのしいどう 事業報告

1. 30年度事業の総括

生産活動の面においては、30年度より、菓子製造班「HARU Berry」をパン工房内に移動し、「春いろ」として活動を行なっています。作業場を移動したことにより、製造ラインの構築や利用者さん間の作業場確保など、慣れるまでの期間は戸惑いの多い日々となりました。二つの班を統合することにより、製造の効率化、原材料や資材の削減、利用者さんや職員間の協力体制も見直すことが出来、取引先や販売先を積極的に開拓し、利益に繋げることが出来ました。12月より、新規事業所「わくわくどう」が開設し、たのしいどうで運営していました「そらかぜ食堂」の業務を移動しています。そのため、新規事業所開設に伴い、利用者さんの異動があり、たのしいどうの人数は少なくなっています。年数を重ねる度にクオリティを上げてきているしめ飾り製作では、年度末に向けて、年間通した生産に力を入れ、大きな成果や達成感へと繋げることも出来ています。多様な利用者さんのニーズや特性に合った作業種の確保には、まだ多くの課題がありますが、杖の組み立て作業や玉ねぎの梱包作業など、作業の難易度も幅広く、多くの利用者さんが役割を担える作業のきっかけ作りにも繋がったと感じています。やり甲斐や楽しみを創出する活動も大切にし、仕組み作りを進めた一年ともなりました。

2. 実施事業

- 就労継続支援事業B型 定員25名 現員17名
- 生活介護事業 定員15名 現員15名
- 短期入所事業 定員 2名/日

3. 平成30年度の利用状況

- たのしいどう全体（定員40名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	45	45	44	44	44	45	40	40	31	32	30	32	45	80.0%
開所 日数	24	24	26	25	26	23	26	24	24	23	23	25	293	
延利用 回数	869	923	890	912	893	874	854	796	634	588	541	605	9,379	

平均実利用数32.0名（小数点第2位以下切り上げ）

年度内に2名の利用者さんが新たに利用開始し、3名の方が退所されています。12名の利用者さんが、新規事業所開設に伴い、事業所の異動をされています。現員数が減った事もあり、利用数は定員より少なくなっています。

■就労継続支援事業B型（定員25名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	31	30	29	29	29	30	25	25	16	17	16	19	31	78.4%
開所日数	24	24	26	25	26	23	26	24	24	23	23	25	293	
延利用回数	582	604	584	591	582	567	532	484	320	301	275	319	5,741	

平均実利用数 19.6名（小数点第2位以下切り上げ）

4月、2月、3月に合計3名の利用者さんが、退所しています。新規事業所開設に伴い、10月以降より、12名が他の事業所へ異動しています。

■生活介護事業（定員15名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	15	83.6%
開所日数	24	24	26	25	23	23	26	24	24	23	23	25	290	
延利用回数	287	319	306	321	311	307	322	312	314	287	266	286	3,638	

平均実利用数 12.5名（小数点第2位以下切り上げ）

4月、5月に合計2名の新規利用者さんが、新たに利用開始しました。

■短期入所事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

今年度は短期入所事業の利用はありませんでした。

4. 取組みの概要

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

・パンと菓子の製造販売

～全国の事業所様との取引を継続的に進め、パンやロールケーキ、焼き菓子の納品、発送を行なっています。受注先の個々のニーズにも極力対応を試み、様々な商品の試作を繰り返し行なう中で、顧客や販売先を継続させる事が出来ています。季節やイベント先に合わせた商品作りも進め、活動に積極的に参加し、営業や販売に取り組み、売り上げへと繋げています。

- ・利用者昼食、グループホーム夕食の製造委託作業
～季節に応じた旬の食材を使用し、彩りある、栄養バランスを考えたメニュー作りに努めています。全国の事業所様との内需取引を継続的に進め、野菜、お肉、魚介類、麺類など、様々な商品を献立へと取り入れています。楽しみがもてる献立になるよう、昨年度より始めました、「お楽しみ選択メニュー」の企画を継続しています。食への興味や、メニューを選ぶ楽しみを大切に、取り組みを進めています。
- ・紙工芸品と受注作業
～しめ飾り製造に重点を置いた紙工芸品作りでは、一年を通してパーツ作りに取り組み、完成度をより高める事が出来ています。全国より沢山の注文も頂き、売り上げへと繋げる事が出来ました。受注業務では、杖の組み立て業務の作業をはじめとした様々な作業に取り組んでいます。また、リサイクル業者より、分解や組み立て作業の仕事を請負、様々な道具を使用し、工程を細分化しながら取り組みを行なっています。

□やりがいや楽しさを創出する活動

- ・作業活動のほか、ダンス活動や体操、音楽、様々な余暇支援を通して、息抜きと通所する楽しさを大切にしています。曜日毎に、作業と活動の時間を区切り、活動を通して、様々な事へと興味をもち、やりがいや達成感への創出に繋がるよう、取り組みを進めています。

■権利擁護

利用者さんの障がい特性や年齢も様々であり、利用者さん同士の人間関係など、日々の細かな対応が求められる中では、スタッフ朝会、終礼時のケース報告で日々話し合う事を積み重ねました。限られた時間の中で答えが出るものとそうでないものがありますが、支援上の課題を共有することや情報共有の機会にもなっています。

■苦情解決

今年度の苦情・要望受付は1件でした。相談受付箱に、職員に対する誹謗中傷の言葉が記載された文章が投函され、記入者の方と話をしています。面談の中から、記載名本人による投函でないことが判り、筆跡や他の利用者さんへの面談を通して、記入者の確認が出来ればと試みましたが、特定には至りませんでした。利用者さんの朝会にて、起こった事案を伝え、相談受付箱の使い方や設置している意味をお話ししています。相談にはいつでも対応することをお伝えし、同じことが起こらないよう注意喚起を行ない、利用者さんにとってより過ごしやすい、職員の支援がより良くなるためへと相談箱が活用出来ればと考えています。

■災害対応・事故対策

避難訓練を2回実施しました。救助者の搬出も想定した、人形を使った避難訓練や、地震や火災を想定した訓練も実施しています。複数の出入り口があるため、火災の発生場所によって人の動きも異なることから、避難経路や避難口の判断、地震発生時の避難判断の優先順位など、常に動きを想定、イメージしてことの大切さを学ぶ機会となり、活きた訓練となりました。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・事業所会議・・月1回実施。情報の共有を図るため実施しています。

- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。

- ・ケース会議・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

- ・各担当者会議・・全国の福祉事業所間での活発な販売や購入に向けた内需拡大、そらかぜ食堂の運営、企業就労者支援、利用者昼食提供の質の向上、それぞれの目的に合わせた担当者が出席し、諸会議を月1回実施しています。

■健康管理

健康診断を年1回実施し、疾病の早期発見に努めています。

■職員研修

年度内に参加した外部研修等に関しては法人の事業報告参照。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	30	29	29	29	29	29
総支給額	601,000	549,600	664,100	602,700	600,800	611,000
平均額	20,033	18,952	22,900	20,783	20,717	21,069

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	25	25	29	17	16	16	303
総支給額	544,200	602,600	1,198,000	314,200	324,600	1,585,700	8,198,500
平均額	21,768	24,104	41,310	18,482	20,288	99,106	27,057

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	14	15	15	15	15	15
総支給額	180,700	161,200	195,900	187,400	163,300	190,600
平均額	12,907	10,747	13,060	12,493	10,887	12,707

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	15	15	15	15	14	15	178
総支給額	188,900	206,500	487,400	171,100	193,700	920,700	3,247,400
平均額	12,593	13,767	32,493	11,407	13,836	61,380	18,244

□事業所全体の平均工賃額 ¥23,796/月(32名)

5. 課題

生産活動の積み重ねた成果が、利用者さんにお支払いする工賃として、毎年少しずつ増額することができています。しかし、原材料の高騰や消費税増税に伴い、生産活動の成果が効率的に利益に繋がるよう、今やっている役務や作っている製品がそれに見合うのかどうかの検証や見直しは、今後も必要と感じています。また、食品事業を主軸としていることから、関係法令の改正への対応、衛生管理体制の強化など、今後は安心安全な製品作りのための準備は急務です。30年度を振り返り、新年度の取り組みに繋げていきます。また、利用者さんが安心して、毎日作業や活動に通所出来、通う事への楽しみや、自分の居場所として受け入れられるような環境作りを大切に考えていきたいと思っております。今後の目標として、一人ずつの支援の視点を見直ししていけたらと考えています。

就労事業の報告

■事業班名：レインボー&クリアー

1. 取組みの概要

主にしめ飾りとウエスの製品製造に取り組む「レインボー班」と、企業からの下請作業に取り組む「クリアー班」の二つに分かれて活動を行ないました。レインボー班のしめ飾り作りでは、獅子舞に加えて、だるまのキャラクターを増やし、グレードアップしたデザインで製作しました。ウエスも少しずつですが、顧客が増えてきました。

クリアー班では、昨年同様に公園管理業務と玉ねぎの発送、ステッキ製造や HDD (ハードディスク) 分解作業に取り組みましたが、更にダストボックス製造や家電リサイクル分解という初めての仕事も請け負いました。



2. 成果

企業からの請け負う仕事も幅が広がり、初めて取り組む内容から戸惑う場面もありましたが、確実に利用者さんの経験値となり、様々な変化に対応できるようになったことで、自信へと繋がりました。また、組立の作業の中にも繊細さが要求される部分があり、女性利用者さんや力仕事以外の工程に取り組む男性利用者さんのスキルアップにもなりました。



3. 課題

納品の期限があるものと、納期の期限が緩やかな作業の両方を同時に取組んだ際に、優先順位を間違えることなく対応し、企業や顧客に不利益にならない様、事業を進めることが肝心と感じています。また、事業班のメンバーは毎年同じとは限らず、作業する力や担えるものも変化します。事業班や事業所間での協力体制を組む等、効率的に作業を進めていく事も必要な場合があると感じています。



■事業班名：ぱん工房春いろ

1. 取組みの概要

売上増に向けた店舗の商品見直しや、受注納品により力を入れ、日々の販売コースも効率的に販売出来る方法を目指して取組みました。商品開発においては、春いろの食パンを沢山の方に食べて頂きたく、チキンカツサンドや卵サンドなど、調理パンを開発しています。店舗販売や外販、そらかぜ食堂での販売を通して、売上げへと繋げています。また、キタノカオリ100%の食パンを使って、北海道の形をした4種の味のチョコラスクを開発し、2月に東京で行なわれた物産展で販売をしてきています。クリスマス商戦ではシュトーレンを製造し、12月に札幌の地下歩行空間で行なわれた販売会で、とても好評でした。また、30年度から、春いろの工房内に菓子製造の作業場を移動した事により、ロールケーキ製造の見直しをし、種類の限定を行なっていますが、道内、道外の他事業所からたくさん注文を頂き、冷凍発送をしています。



北海道チョコラスク

2. 成果

春いろイチオシの商品である食パンを、学校や他事業所様の昼食や朝食用として、注文して頂く機会が増え、また新規の販売先を開拓することが出来たことにより、売上も伸ばす事が出来ました。販売会などでは、ラスクやクッキー、かりん糖などを多く持っていくことで、パン以外の春いろ商品の魅力を伝え、売上を積み上げることが出来るようになってきました。ロールケーキの受注が立て込んだ時も、パン工房と菓子製造場所が一緒になった事で、素早く一度に沢山のロールケーキ生地を春いろのオーブンで焼く事が出来、日にちを掛けずに対応ができた事は、効率化にも繋がり、良い成果をもたらしたと思います。



食パン

3. 課題

食品表示法やHACCP義務化に向けて、法律を正しく理解していくことや、1つの製品として、安全にお客様へ届けられているか等、適切なチェック体制作りが、今後とても大切だと感じています。原材料の高騰は、今後も進んでいく事が想定されますので、より付加価値の高い製品の開発や価格の見直しを行ない、利用者さんの工賃へと繋げていけるような取組みも必要だと考えています。現在注文を頂いている納品先を大切に、より多くの顧客を開拓し、売り上げ増を目指して努力していきたいと思えます。



サンドイッチ



春いろ店舗

■事業班名：さんくっく

1. 取組みの概要

昼食製造作業やグループホームの夕食製造作業を、日々の作業として積み重ねて取り組んでいます。旬や節句、仲間の事業所の製品や食材を取り入れたメニュー作りや、月1回のお楽しみメニューも提供しています。新たな取り組みとしては、栄養計算ソフトを導入し、それを少しずつ使いながら、栄養バランスや材料の組み合わせの目安として活用しながら、月間献立作成を行ないました。また今年度も、北海道ラーメンの注文に応じて、全国発送の準備として、梱包作業にも取り組みました。



一人ずつの料理技術は、年々高まっています。北海道ラーメンの梱包作業も、手際よくこなすことが出来ていました。



2. 成果

グループホームの夕食製造では、夕食製造がメインであることに変わりありませんが、朝食の製造や分配作業もほぼ毎日行なうようになり、一人ずつの役割や業務に対する責任感も大きくなっています。昼食製造では、月1回のお楽しみメニューの日を、選択メニューの内容として実施し、デザートや、珍しいメニューにも挑戦しています。日頃の昼食スタイルとは異なる事で、特別感があり、利用者さんの食べる楽しみにも繋がっていると遣り甲斐に感じています。栄養計算ソフトを使った献立作りを始めたことで、材料の調整やカロリーを抑えることが、少しずつ出来るようになってきています。

3. 課題

栄養計算ソフトを十分活かした献立組み立て、栄養表示の掲示まではまだ至らぬ、健康に重点をおいた発信が足りなかったと感じています。利用者さん一人ずつの調理技術は高まっていますが、グループホームの配食検品作業の際に、数が間違っていた等のミスが多かったため、確認作業を重点的に行なうよう、班としての協力体制、役割の明確化を重点に、環境の整備にも取り組む必要があると感じています。



仲間の事業所のジェノベーゼソースを使った本格的なパスタや、香川の讃岐うどん等を献立へと取り入れています。



■データ（たのしいどう）

- | | | |
|-----------|---------------|-------------------|
| 1. 製造販売事業 | 売上 2 4 9 5 万円 | 工賃還元額 1, 0 4 1 万円 |
| 2. 下請加工事業 | 売上 1 1 2 万円 | 工賃還元額 1 0 5 万円 |

平成30年度 きっちんどう 事業報告

1. 30年度事業の総括

30年度を終え、継続することの大変さを様々な面より感じる一年となりました。福祉事業所として、大きな事故・怪我もなく1年間を終えましたが、途中より通所が困難になってしまった方が2名おり、年度当初のメンバー揃って終えることはできませんでした。就労事業では、今年度、店舗前の日除け幕を新調し、心機一転致しました。また、新しく物置の設置や車両入替えて白ノアの購入、ドライブレコーダーの取り付けなど整備させてもらうことができました。その他、調理器具や炊飯器内釜等も劣化に伴い買い替えました。また、作業台の購入も行ない、作業環境や衛生環境も少しずつ整えることができました。成果を求められる昨今の中ですが、食事故もなく目標としている平均工賃月額3万円を今年も超えることができました。

支援の面では、パート職員の入れ替わりがありました。利用者さん達は混乱することもなく、日々メンバーと協力して安定した活動が行なえています。行き届かないところもありつつも、毎日、楽しく通っていただける場として提供できました。



2. 実施事業

就労継続支援事業B型	定員 14名	現員 19名
生活介護事業	定員 6名	現員 5名

3. 平成30年度の利用状況

■きっちんどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	24	23	23	23	24	24	22	22	23	22	21	22	24	93.2%
開所日数	24	24	26	27	24	25	26	26	24	23	25	25	299	
延利用回数	468	491	485	496	479	466	484	465	456	430	401	450	5,571	

平均実利用数 18.7名（小数点第2位以下切り上げ）

就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	19	18	18	18	19	19	17	17	18	17	16	17	19	102.1%
開所日数	24	24	26	27	24	25	26	26	24	23	25	25	299	
延利用回数	360	379	375	387	373	359	370	357	348	322	303	339	4272	

平均利用数 14.3名（少数点第2位以下切り上げ）

生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	86.9%
開所日数	24	24	26	27	24	25	26	26	24	23	25	25	299	
延利用回数	108	112	110	109	106	107	114	108	108	108	98	111	1299	

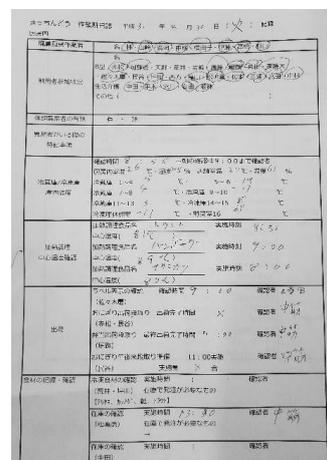
平均利用数 4.3名（少数点第2位以下切り上げ）

29年度と比較し、10月より減員数に減少があり、前年度比の利用率は、-3.2%。

4. 取り組みの概要

平成30年度のきっちんどうは、平成30年度の成果に続き、順調な弁当製造を進めることができました。製造面では、昨年に食器洗浄機が整備され、利用者さんの作業も効率良く進められるようになりました。

また、HACCP導入に向けても取り組みの一環として、記録を必要とする項目に沿って、必要事項を作業日誌にまとめ記録を始めました。利用者さんの役割としても行なえる部分は担ってもらい、利用者さんも衛生面について意識を高く持てるようになってきています。利用者さんスタッフと一緒に、お客様へ安心安全に食べていただける弁当製造を取り組むことができた一年となりました。



利用者さんも含んで行なっている作業日誌の記録

■利用者支援

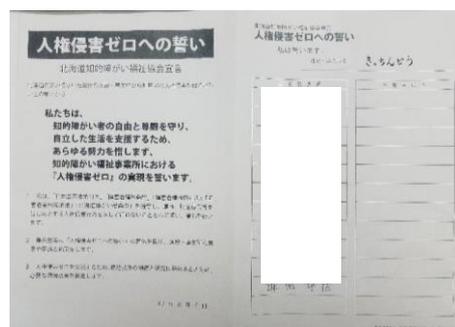
支援の主軸である生産活動事業では、おにぎり・弁当製造を中心に活動を実施しました。利用者さん個々の特性に合わせてどのように役割分担ができるかを個別支援計画と連動させ支援を行ないました。利用者さん一人ひとりが、担う役割を果たせるようにと真剣に作業へ向かう姿をたくさん見る事ができました。これまで土・日曜日の弁当受注があっても作業参加を希望しなかった方が、本人からの希望で作業に参加さ

れることも増えており、個人個人の意識の高まりを感じることができました。

製造したおにぎり商品の販売強化としては、今まで同様に全国の法人・事業所との繋がりを大切にし、お互いの商品の購入・販売を意識しながら商品の発信をいたしました。

■権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせも併せて実施。年度途中にも法人内研修や職員会議など「権利擁護」については、様々な視点から権利擁護について取り上げています。従業員の中でも割合を多く締めてきているパート職員にも権利擁護について、周知を行ない情報の共有をすすめました。特に新しいパート職員に対しては知的に障がいのある方を支援するための行動規範や、特性による個別な関わり方については繰り返し伝えていきます。



■苦情解決

苦情受付については、30年度0件となっています。

しかし、事業所内で利用者さん同士の間金銭トラブルがあり、空知総合振興局へ事故等発生状況報告書の提出をしています。今後の防止策として職員間で話し合い、利用者さんを受入れている時間内は、利用者さん同士の行動に目を配り、施設内でトラブルが起きないように、人気が少ない部屋へ立ち寄りたり、日々の表情や様子等の変化に気づけるような声かけを行ない、利用者さんの心身の状態把握を行なうようにいたしました。職員間で連携して気付いた情報を共有していくことにも努めました。

利用者さんからの要望については、日頃より苦情窓口の担当者をはじめ、各職員にて対応し、要望の聞き取りや要望への対応を日々行なっています。今後も利用者、ご家族、障がいのある方たちの身近にいる方たちから気軽に要望や相談が行なえるように対応していきます。

■感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから利用者及び職員の全員が毎月、検便を実施しております。大腸菌 O-157、サルモネラ、黄色ブドウ菌については、毎月の検便結果をもって、健康保菌者の把握まで確認することができています。体調不良者は、厨房に入らない（持ち込まない）を徹底し、利用者さんの体調管理と共に衛生面の確保に配慮しています。30年度も感染症に罹る利用者及び職員はほぼおりませんでした。

体調不良の訴えや様子が見られた場合は、館内に入らないことを全員で徹底しました。

■災害対応・事故対策

非常災害・事故対策では、火災想定避難訓練を年2回実施（6／13、11／27）。

9月6日に北海道胆振東部地震が発生し、事業所が開所できない状況が発生いたしました。ご家庭との連絡調整や職員間の連絡体制について、また災害時の対応等さまざまなことを学ぶ機会となりました。今後の対応として各事業所、地域生活支援とも連携を取りながら早めの対応を取ることができるよう、各職員が災害時における役割や利用者さんの安否確認に至るまでを明確にして取り組むことを確認しています。災害備蓄食品では、備蓄食品



の製造販売を行なっている江差福祉会様や北海道光生会様と連携し、地域への販売促進と合わせて、備蓄食品の確保に努めています。

■年間行事

日時	行事名	会場
6/13	避難訓練	きっちんどう
7/2	岩見沢食品衛生協会 巡回指導	きっちんどう
7/26	健康診断	きっちんどう
10/17～18	全道知的障がい関係職員研究大会	定山溪
11/6	空福協 災害対策研修会	砂川市
11/9～10	利用者温泉旅行	ニセコ町
11/16～17	利用者温泉旅行	層雲峡
11/27	避難訓練	きっちんどう
2/15～19	全国生産活動・就労支援部会職員研修会	東京都新宿区

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。
- ・事業所（班）会議・・・月一度の全体会議の他に、全体会議であがった案件や事業所の議案など、必要に応じて実施いたしました。
- ・個別支援計画策定会議・・・利用者の個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。個別支援計画原案をもとに支援計画の支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論し、作成に努めています。
- ・ケース会議・・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。

■健康管理

7/26 全利用者、スタッフに対して健康診断を実施。30年度も任意での取りまとめ

となった検診でしたが、ほとんどの利用者が検診を行なわれています。

一般検診の身体測定、視力検査、聴力検査、血液検査、尿検査、胸部X線、心電図、個人からのオプション検査。検査結果により、個人相談及び精密検査を勧めています。

■支援記録

利用者支援記録及び事業所日誌を通して、記録の在り方をスタッフと確認しています。第三者に閲覧していただくことがあっても適正な記録として見て頂ける内容の記載を行なうように伝えています。1日の中で「できたこと」や「良い表情が見られたこと」などに着目し、少しでも利用時間中に利用者さんが楽しんでおられた様子の記録をしていくことが大切であることを毎年のことですが、継続指導しつつ、記録を残しています。

■職員研修

行政や各福祉団体からの法の改正における制度の研修、利用者支援・権利擁護における研修、生産活動における研修等で外部研修に参加しています。

内部研修も不定期ではありましたが実施。基礎知識を含め、制度、記録方法、個別支援計画作成についてなどの研修を行なっています。

■施設整備状況

車両運搬具取得・・・車両購入（ノア）

建物取得・・・・・・・・物置購入

■工賃支払い状況

就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	19	18	18	18	19	19
総支給額	413,700	391,600	385,500	379,200	391,500	384,400
平均額	21,774	21,756	21,417	21,067	20,605	20,232

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	17	17	18	17	16	19	215
総支給額	379,400	385,700	1,852,600	490,800	590,900	1,624,600	7,669,900
平均額	22,318	22,688	102,922	28,871	36,931	85,505	35,673

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	5	5	5	5	5	5
総支給額	79,200	74,500	85,200	75,700	74,700	75,700
平均額	15,840	14,900	17,040	15,140	14,940	15,140

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	5	5	5	5	5	5	60
総支給額	81,500	83,600	425,200	111,800	150,400	457,100	1,774,600
平均額	16,300	16,720	85,040	22,360	30,080	91,420	29,576

□事業所全体の平均工賃額 ¥34,343- (24名) (対29年度比 +5,795円)

5. 課題

一人ひとりが役割を持って取り組むことで「やりがい」や自分の場所として生き生きと活動をした結果、工賃を得る喜びを感じている方も増えているように思います。

一方でお金の価値観や使い方についての考え方など今までになかった支援も必要だと感じています。

作業面においても、利用者さんが分かりやすく取り組みやすい環境づくりに対する支援力が乏しく、職員が工夫しながら模索し視覚情報や補助具の導入などに手掛ける時間が不足していると反省が残ります。

今年度、支払った工賃は前年比よりも上がっていますが、製造できる量には限界があり、これ以上の増産は厳しくなっています。今後は、工賃額を3万円以上支払える事業所としての「継続力」が必要であると痛感しております。福祉事業としても就労事業としても、無事故で安心して利用していただけるような事業所でありたいと感じています。

就労事業の報告

■事業班名 てのひら

1. 取組みの概要

食品製造班として、おにぎりの製造販売・弁当の製造販売・利用者昼食提供に取り組みました。

おにぎり製造では、従来の「肉巻きおにぎり」「肉巻き棒」を、全国の事業所などでイベントや昼食提供に使用していただきました。また、北海道150周年記念式典にて3日間利用者さんと一緒に肉巻きおにぎりの販売を行ないました。

東京新宿区で行なわれた「第7回全国生産活動・就労支援部会職員研修会」の物産展では、今年度は販売ができませんでしたが、お客様にたくさんPRさせていただく機会となっています。

商品としては肉巻きおにぎりを使用した「肉巻きおにぎり弁当」を商品化し、お弁当配達と合わせて、いつでも配達できる定番メニューとして販売を開始しました。

また、市内の学校祭や季節に合わせ恵方巻きの注文販売も行ないました。



北海道 150 年記念式典にて、
肉巻きおにぎりの販売



肉巻きおにぎりを使用した
「肉巻きおにぎり弁当」

お弁当製造では、今年も全国の障害福祉事業所の商品を取り入れ、いつでも注文を受けられる定番弁当として販売を継続しました。

近隣の福祉事業所や企業、学校、行政機関などからもイベントや会議、研修会など予算に応じたお弁当注文を頂く事ができました。

毎日の日替わり弁当についても満足頂けるように工夫をしながら製造を行ないました。

その他、3年目となりました市内の高齢者施設の昼食配達では、毎月の定例会議で互いに情報交換を行ない不備な点や改善点の確認も含め、高齢者が食事を楽しみながら安全に摂れるように進めました。

今年は北海道障がい者スポーツ大会が岩見沢で開催され、400個のお弁当の注文を頂き、美唄市の事業所「さしすせそ」と協同して製造を行ないました。

また、毎年ヤマト福祉財団様より行事や会議のお弁当も定期的に注文をいただいております。今年度は9月の震災直後に北海道支部の事務長、安井様が当事業所を直接訪問し視察されています。停電の影響による食材確保の大変さ等を目の当たりにされ、今後万が一の事態が発生した際にはヤマトグループ様で設備している冷凍庫の活用もできるようにして下さるとお言葉をいただいております。

24年度から続けさせて頂いているLPガス協会様より承っている小学生対象のキャラ弁教室は今年度も実施しています。

今年も食品異物混入事故の多くの事例から、当事業所でも白衣付着の異物取り除きに重点を置き、異物混入対策に取り組みました。



「第56回北海道障がい者スポーツ大会」で
さしすせそと協同製造したお弁当



ヤマト福祉財団 北海道支部事務長
安井様が視察に来られた際の写真

2. 成果

おにぎりの部門では、今年も全国の事業所様より「肉巻きおにぎり」各種、「肉巻き棒」を購入して頂きました。

その中で、真空包装を業務用にして欲しいと要望も出てきており10個ずつの真空包装でお届けできるように改善しました。

お弁当製造では、昨年にお弁当のコスト見直しを行ない、「毎日割り」という形で日替わり弁当（450円）の提供を始めたことにより、建設会社などの注文は工期が終了してもまた、別の現場が開始されると継続して注文をいただける状況がありました。



空知の事業所で作られた製品を
取り入れた、お弁当



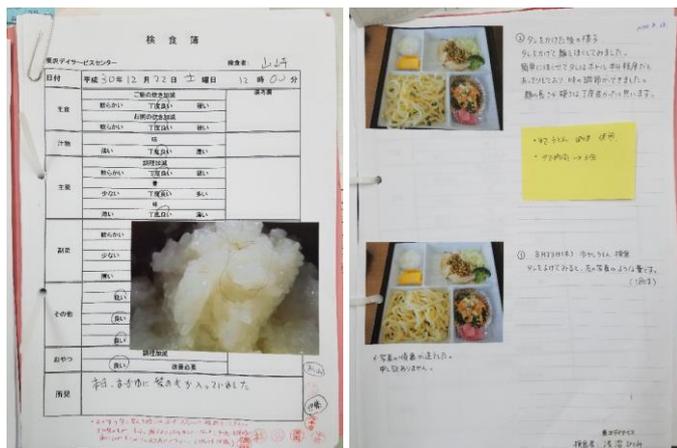
お弁当製造、作業風景

お弁当製造では、昨年よりも多く年間1,903万円の売り上げとなる取り組みとなっています。その中に、市内の高齢者施設の昼食提供も含まれています。

食べていただく高齢者に合わせて常食やおかず食、ワーファリンなどの禁忌食対応や、おかずのきざみ、

一口大カットなど配慮が必要な作業を行ない提供しています。高齢者施設の職員さんより毎食、検食簿を記入して頂き食材の硬さ等の調理具合や味、見た目等の感想を記入して頂いたものを職員全員で確認し、改善点や注意点を共通認識で確認した上で製造を行ないました。特に毎月の行事食や誕生会の特別食の対応には喜んでいただけていると、たくさん感想もいただいています。また、今年度は以前より要望があった麺類の提供を行うために試作を重ね「冷やしうどん」の提供も行なうことができました。

30年度のキャラ弁教室では、“スーパーマリオ”にチャレンジしました。数年開催させていただいていますが、開催当初には普段、関わることのない子供達との空間や作業環境に、一緒に参加した利用者さんの中で落ち着かない様子を見せていた方も、今ではしっかりと取り組める姿も見られ成長を感じられる場面も見られています。



高齢者施設と情報交換を行っている検食簿

食品製造における衛生の取り組みでは、“手洗い支援”の完全実施と異物混入対策として、スタッフによる利用者一人一人への白衣のローラー掛けの実施を行ないました。

また出荷する製品の最終確認と食品表示のチェックを必ず利用者さんとスタッフ2人で行ない異物混入や表示ミスのないように確認を行なう流れも継続して行なっています。食品を販売していく中で、一つひとつの商品に責任があることをスタッフ間、また利用者とも共有し衛生・食品表示への意識を高めています。



手洗いは厨房入室時や工程が変化する度に実施

3. 課題

生産活動では、製造量が増えることにより安全面でのリスク管理が疎かにならないよう考慮し可能な限りで受注に応えられるように心掛けました。

また、お客様が飽きないように定番弁当メニューの入替えや新商品メニューの考案には、なかなか取り組むことが難しく定期的に行なえるようにする必要がありますと感じています。お弁当の内容についても、高齢の方でも安心して食べることができる食事作りにおける情報を勉強する必要があります。

作業面では、利用者さんが分かりやすく取り組みやすい環境作りに対する支援力の向上

が必要と感じています。製品の質や量などを維持しながらも利用者・職員共に限られた時間での活動ですので、効率的に進めていくためにも今まで以上に利用者さんへの視覚情報の掲示やスケジュール整備、調理時の補助道具の導入などを検討し、1人1人の力が最大限に発揮できるよう様々な視点から環境を整えて今後の仕組み作りを行なえる状況が必要です。

4. データ

利用者実人数：24名

生産活動売上：2,444万円

工賃還元額：890万円

▲事業班名 まごころ

1. 取組みの概要

下請加工事業班として、自動販売機の管理や芽ひじきの選別作業、館内の清掃業務委託等を実施し、全国の事業所製品の仕入れ販売を店舗にて行ないました。



選別作業を行なっている様子

2. 成果

清掃業務委託の売上が大きな売上となっています。自動販売機の売上手数料は商品が入り替わると一時的に売上が上がりますが、例年に比べると毎月の収入は減少しています。芽ひじきの選別作業は、主に生活介護の利用者さんが作業として携わる事が多く、細かな作業なので製品として完成品は年間で2.5kgとなっています。

3. 課題

全国の事業所製品の販売では法人全体として取り組んでおり、イベントや販売時期も考慮しつつ仕入れる製品の選定も必要となります。

また、芽ひじきの選別作業では進めていく工程で長時間の集中力持続が難しく、思うように収入に結びつくことが難しい状況もあり、今後も先方と現状の確認を行ないつつ取り組む必要があります。

4. データ

利用者実人数：24名

下請加工売上：52万円

工賃還元額：53万円

平成30年度 あかるいどう 事業報告

1. 30年度事業の総括

多様化するニーズの活動拠点としての取り組みを進めてきた「あかるいどう」も開設から6年が経ちました。特にこの年は、様々な作業・活動の充実を図り、よりやりがいの持てる事業を展開していくことに力を注いだ1年となりました。昨年度より請け負ってきたおしぼり検品作業も、事業所内に製造スペースを設けることで、利用者さんの活躍の場を増やし、働くことへの意欲の向上を促すと共に、企業のニーズに素早く対応できる環境を整備しました。また、昨年12月に「わくわくどう」が開設されるまでの間、高齢者施設の清掃作業や一般企業等への外部就労の拠点としての役割も果たしてきました。

その他では、事業所内における創作活動や惣菜製造作業、清掃業務委託を通じた、日中活動支援を実施しました。創作活動においては、アールブリュット等の展示会を通じて、その作品や制作した利用者さんに注目が集まった年でもありました。新聞や機関誌に取り上げられ記事になった事は、ご本人にとって大変誇らしく、事業所にとっても大変嬉しい出来事でした。試行錯誤を繰り返しながら取り組みを続けてきたアート活動ですが、6年の年月を経て、沢山の芸術的作品が生まれ、確かな評価へと繋がってきました。レンタルや絵画の受注を通して、他事業所の店舗や館内へと作品を飾って頂く機会も増え、より様々な技法や材料を取り入れた制作に取り組んでいます。また、利用者さんの描いた絵が、パンフレットやポスターの表紙に選ばれる等、利用者さんの創作意欲へと繋げられる嬉しい機会を頂くこともできました。創作活動の歩みはとてもしっかりではありますが、少しずつ様々なカタチとなり、発信や評価へと結び付ける事が出来た30年度となりました。

2. 実施事業

就労継続支援事業B型	定員10名	現員10名
生活介護事業	定員10名	現員11名

3. 平成30年度の利用状況

■あかるいどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	24	24	24	24	24	24	27	27	21	21	21	21	282	92.1 %
開所日数	24	24	26	25	23	23	26	25	24	23	23	25	291	
延利用回数	453	476	467	484	447	434	563	525	388	367	366	393	5,363	

平均実利用数 23.5名（小数点第2位以下切り上げ）

■就労継続支援事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	13	13	13	13	13	13	16	16	10	10	10	10	150	107.2 %
開所 日数	24	24	26	25	23	23	26	25	24	23	23	25	291	
延利用 回数	266	281	272	287	260	248	358	340	207	197	195	211	3,122	

平均実利用数 12.5名（小数点第2位以下切り上げ）

■生活介護事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	10	10	118	77.2 %
開所 日数	24	24	26	25	23	23	26	24	24	23	23	25	290	
延利用 回数	187	195	195	197	187	186	205	185	181	170	171	182	2,241	

平均実利用数 9.9名（小数点第2位以下切り上げ）

4. 取組みの概要

30年度日中活動の取り組みとして、製造販売事業と下請加工事業に分かれ、個々の特性や持てる力に応じた作業内容と、新たな取り組みへの支援を行なっています。

製造販売事業では、これまで、そらかぜ食堂へ納品・販売していた小鉢の惣菜製造を止め、ハンバーグやポテトサラダなどの事業所間の昼食や歩～夢の夕食・朝食の惣菜製造に絞って取り組みを行ないました。今年度も、昼食献立メニューとして、全国や空知管内の事業所が製造、生産する商品を食材として取り入れ、内需取引を計画的に進めています。下請加工事業では、市内の高齢者施設における清掃、おしぼり検品作業や年度途中からのおしぼり製造作業など、企業からの業務委託を行なってきました。新しい取り組みとして、札幌の企業から熱帯魚水槽の設置業務に携わり、請ける作業にも幅が広がりました。たのしいどうに水槽が設置されたことから、水交換や水質検査などを1から学び、水槽のメンテナンス業務も請け負っています。これまで取り組んできた絵画レンタル業務も、引き続き、そらかぜ食堂やパン工房春いろ店舗、きっちんどう店舗の壁に飾る絵を季節や店舗に合わせたコンセプトで制作し、定期的に作品の入れ替えを行ないました。作品を観て頂いたお客様より、作品への好評を頂ける機会も増え、より利用者さんの創作意欲へと繋がっています。

5. 成果

■利用者支援について

□就労継続支援事業

就労継続支援事業では、製造販売事業と下請加工事業の取り組みの中で、個々の成長やニーズに合った作業種の提供、様々な取り組みや新たな挑戦を繰り返し行ない、一人ひとりがやりがいを感じ、より工賃向上の結果として繋げていけるような支援を行なっています。



事業所内でのおしぼり製造の様子



下請事業で請けた水槽設置

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

日中活動の生産活動では、惣菜製造に取り組む利用者さんの技術の向上が見られ、自ら進んで調理工程を担う場面が、より増えてきています。一つずつの完成度も高く、利用者さんの調理工程の成長も感じる事が出来ました。少ない人数の中でも、一人ずつが責任をもち、自分達の仕事に自信をもって取り組んでいる様子が、伺えるようになっていきます。作る事の楽しみや達成感を大切に、「食」について、今後も興味を高めていけるような支援を実施していきたいと考えています。

創作活動では、年々利用者さん一人ひとりの感性や技術が高まり、素晴らしい作品が増えてきています。展示への参加を積み重ねていく中で、より利用者さんの芸術作品を観て頂き、個性や感性に気付く、発見して頂けるよう取り組みを進めてきました。その中でも、芸術性に富んだ作品が、市内の様々な展示会に出展されたり、遠く帯広のアーブルブリュット展の展示作品に選ばれた事が雑誌の記事に載るなど、一人ひとりが好んだ創作内容や得意とする技法を選択することで、個々が持った才能が作品となり、沢山の評価ややり甲斐に繋がる活動へと活かされてきました。



各事業所へのレンタル絵画制作の様子



さぼーと誌に掲載された写真

■権利擁護について

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行われている「権利侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせを実施。年度途中にも法人内研修にて再度、取り上げ読み合わせを行い、法人独自の危機管理アンケートを実施し、自己点検を行なっています。また、利用者支援において事前に対応をチームで決める等、ケース対応について検討しております。

■苦情解決委員会

苦情受付については、今年度、受付件数は5件となっています。利用者さんから、日々、作業や生活している中で感じる疑問や悩み等の相談を受け付け、一人ひとり面談を行ないながら、随時対応を行なっています。

■感染症対策

感染症対策として、年に一度の健康診断実施やインフルエンザ予防接種の奨励。感染症については、月一度の検便も大きな役割を果たしています。今年度、感染症に罹った利用者、スタッフは0名でした。

■災害対応・事故

非常災害・事故対策では、避難訓練を6月・11月の2回実施しています。9月6日に大きな地震を経験したことから、11月の実施には地震からの出火を想定した訓練となり、災害時の対応方法、避難経路、避難方法、避難先等を再度周知・確認する良い機会となりました。

■年間行事

日時	行事名	会場
4/1～	市民健康ひろば・市役所 作品展示	健康ひろば・市役所 1階
6/30～	IWAMIZAWA センターミュージアムを巡ろう作品展示	市役所
7/1～	教育大学岩見沢校アダスポ 作品展示	教育大学岩見沢校
9/20～22	みんなあ～と展示部門 入選作品展示	札幌 かでる 2・7
10/3～9	障がい者週間アート展 「ハート&アート 2018」 作品展示	健康ひろば 1階
10/20	「岩見沢まちあそび人生ゲーム」 作品展示	市役所
2019/2/21 ～3/31	「北海道のアールブリュット」帯広 作品展示	帯広美術館

■諸会議

- ・事業所会議・・・月1回実施。情報の共有を図るため実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。
- ・各担当者会議・・・全国の福祉事業所間での活発な販売や購入に向けた内需拡大、権利擁護、利用者昼食提供の質の向上、それぞれの目的に合わせた担当者が出席し、諸会議を月1回実施しています。

■健康管理

健康診断を年1回実施し、疾病の早期発見に努めています。

■職員研修

年度内に参加した外部研修等に関しては法人の事業報告参照。

■支援記録

事業所日誌や日々の支援記録を通して、記録の在り方や適正な記載の方法などを伝え

ています。1日の作業の内容や出来事だけではなく、どのような工程が出来るようになったか、どんなことへ興味を持って取り組んでいるかなども記載するようにしています。出来ない行動に注目するのではなく、色々な視点を変えながら支援し、記録へと繋げていけるように心掛けています。

■施設整備

- ・各事業所の自転車置き場の木柵塗装。
- ・たのしいどう駐車場における花火看板設置。
- ・利用者作業場、アトリエ配置換えと整備～材料仕入れを行い、スタッフの手で実施。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	13	13	13	13	13	13
総支給額	281,500	312,000	327,300	307,900	308,700	321,700
平均額	21,654	24,000	25,177	23,685	23,746	24,746

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	16	16	16	10	10	10	156
総支給額	381,400	375,700	609,600	251,700	278,100	597,000	4,352,600
平均額	23,838	23,481	38,100	25,170	27,810	59,700	27,901

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	10	10	10	10	10	10
総支給額	118,000	114,800	127,400	111,400	98,800	100,500
平均額	11,800	11,480	12,740	11,140	9,880	10,050

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	10	10	9	10	9	10	118
総支給額	109,200	114,600	233,000	95,100	111,200	217,700	1,551,700
平均額	10,920	11,460	25,889	9,510	12,356	21,770	13,150

□事業所全体の平均工賃 ￥ 20,526—(20名)

6. 課題

今年度は、工賃向上に向けた取り組みとして、企業からの業務委託の枠を広げて、事業所内に製造スペースを設け、設備投資を行ないました。しかし、初めての製造作業にスムーズに取り組めるようになるまでの間、事業所内、特に職員の手と意識が集中し、他の業務や活動に対する、広い視野を持った支援が難しかったように感じています。製造に追われる事で、異物混入や器具の点検等、食品衛生管理が疎かにならないよう、安全性に留意した環境を整え、利用者さんと共にやりがいを感じながら、成果へと繋げていけるよう、今後も取り組みを進めていきたいと考えています。

日中活動として、創作を進める上で、1点の作品を完成まで創り上げる時間や、制作完成に至るまでの難しさを日々痛感しています。展示会への作品制作と、絵画レンタルの定期的な入れ替え作品制作へと、両立した制作が難しく、常に期間に追われている状態が多かったと感じています。

展示会による、利用者さんの芸術作品の啓発や、活動への成果報告へと繋げることは、確実に増えてきていますが、販売に向けた、アート製品の商品化や営業等を進める事は、今年度は行なう事が出来ず、課題が残ったと感じます。展示会を通して、作品の魅力を伝え、活動内容を外部へ発信する活動へと、今後は取り組んでいきたいと思えます。

就労事業報告

■事業班名 にこにこ・さんさん

1. 取組みの概要

日中の創作活動では、利用者さんの作品を館内のアトリエや食堂、様々な展示会への出展に向けた作品作りなど、アート製作の活動に日々取り組んでいます。展示会に向けた制作では、絵の具やサインペンを使用した絵画や立体作品等、個人作品から共同制作など、1点ずつ心を込め、楽しく皆で作りに上げています。また、例年に引き続き、仲間の事業所から絵画の注文を頂き、制作、納品を行なうことが出来ました。年末には、利用者さんの絵画をデザインとして取り入れた、2019年オリジナルカレンダーを制作、販売も行ないました。お世話になった施設や役員の皆さんへ、法人からの挨拶として、カレンダーをお渡ししています。また、法人の年賀状にも、利用者さんの干支の猪の絵を掲載し、更にも多くの方々へ、個々の芸術作品を観て頂く機会が増えた1年となりました。

アート作品



新冠の仲間の事業所へ納品した作品

地域交流祭で展示した巨大パネル作品



あかるいどうの利用者さん全員の絵や作品を取り入れた、オリジナルカレンダー

食品製造班にこここでは、利用者さんの昼食製造と、昨年に引き続き、各事業所へ納品するハンバーグやサラダなどの惣菜製造を行なっています。



月1回提供をしている、「お楽しみメニュー」



事業所内の昼食・惣菜製造の様子

下請加工事業班さんさんでは、館内清掃と介護付き有料老人ホームの清掃委託、クリーンアクトのおしぼり検品作業、水槽水替え委託業務、絵画レンタル等を取り組みました。年度の半ばで、あかるいどう内でおしぼり巻き機を導入し、おしぼり巻き、検品の作業に取り組み始めました。



共同で取り組んでいる創作作業の様子

清掃委託では、アトリエや作業場、トイレの清掃、施設周りのごみ拾い等を行ない、皆さんが過ごしやすい環境作りを目指し、取り組んでいます。オアシス清掃は、今年度から新しく、クリーンアクトより業務を委託し、取り組みを開始しました。オアシスのスタッフと連携を取りながら、清掃箇所や清掃場所の確認を行ない、作業を進める事が出来ています。利用者が自分の役割りやチームとしての協力体制、施設外での作業の取り組みのへの意識等、やりがいや働きがいを感じながら、日々清掃業務に当たっています。



館内の清掃風景



老人施設内の清掃風景

おしぼり巻き作業では、1日6,000本を目指し、おしぼりにしみやごみが付いていないか1枚1枚確認を行なった後、おしぼり巻き機に流す作業を行なっています。立ち仕事で、集中力や忍耐・体力を必要とする作業ですが、日々の検品目標数に達成出来る様、懸命に業務に取り組んでいます



あかるいどう館内でのおしぼり巻き作業の様子

新規で取り組み始めた、水槽の水替え交換作業ですが、初めての生き物の取り扱いという事で、水質管理の難しさがありました。事業主の指導の下、水の交換方法、塩分濃度や水質の検査方法を学びながら取り組みを進め、水質を安定させることに成功しました。元気に泳ぐ魚たちを見て、気持ちが癒され、利用者さんやお客様から好評の言葉をいただいています。



水槽の水交換・管理委託

2. 成果

活動（製造、創作活動、清掃、委託業務）を通じて、あかるいどうで過ごす利用者さんにとっての、働く事への意欲や芸術作品への創作意識、活動への参加意欲、自身の居場所や生き甲斐、やりがいを感じられた1年になったのではないかと感じます。また、施設外就労で、事業所の外で働くことを通じて、社会的ルール等を身に付ける機会にもなっています。30年度は、2階に分解作業用の作業室を整備したり、1階に新たな取り組みのための製造スペースを設けて設備投資をするなど、利用者さんの活躍の場を増やし、作業環境の整備も積極的に行なうことが出来ました。新たにスタートしたおしぼり巻き作業も一段と力を入れて取り組んでいきたいと思えます。

創作活動では、9月に札幌の「かでる2・7」で行なわれた「みんなあーと2018」、10月に岩見沢健康ひろばで行なわれた「ハート&アート展」へと作品を出展する事が出来ています。また、昨年同様、他事業所からアート作品の注文を受け、地域に関連した作品や設置場所に合わせた絵を製作し、1月に納品を行なう事も出来ています。また、今年度も作成した、2019オリジナルカレンダーは、親御さんやスタッフに好評をいただき、たくさんご購入いただきました。

展示テーマ：ハート&アート



ハート&アート会場広場



作品名：オオタニさんと
ケイスケ ホンダと
仲間たち

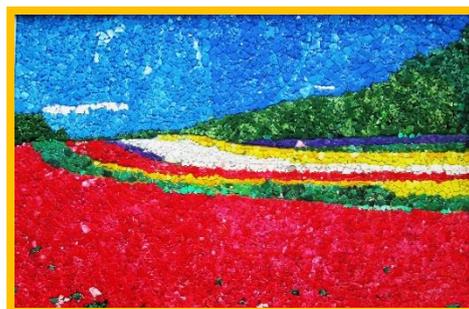


作品名：ロボ空風龍

展示テーマ：みんなアート

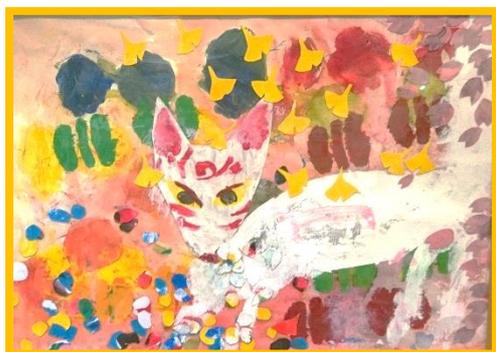


作品名：スノーラビット



作品名：富良野の風景

アトリエテーマ：取り組み展示



作品名：妖狐



作品名：秋・冬

3. 課題

利用者さんの特性に応じた作業内容、ニーズに対応した個々の環境整備や治具の整備が、今後もさらに増やしていく必要があると感じています。また、アート制作した作品を製品として製造、販売、継続したレンタルへと進めていける様取り組み、より利用者さんのもつ感性豊かなアートの魅力を広げられる様、啓発活動により力を入れていく事が大切だと感じます。工賃向上に向けた作業の確保と作業環境の改善へ取り組みを続け、1人ひとりの利用者さんの生活が豊かになる様な、支援を目指していけたらと思います。

4. データ

下請加工事業（業務委託）

利用者実人数：8名

生産活動売上：412万円

工賃還元額：361万円

製造販売事業・下請加工事業（にこにこ・さんさん）

利用者実人数：13名

生産活動売上：350万円

工賃還元額：229万円

平成30年度 わくわくどう 事業報告

1. 30年度事業の総括

平成30年12月にわくわくどうを開設し、空知の風の4つ目の日中活動支援事業所として活動を開始いたしました。これまでの日中活動支援事業所と異なる点は、多機能型の事業ではなく、就労継続支援事業B型のみのもので単独型を取っているところです。活動場所は、空知総合振興局5階で行なっている「そらかぜ食堂」と市内にある企業で「北海道クリーンアクト」というおしぼり工場内での施設外就労と事業所を出た場所に分かれています。

そらかぜ食堂は、たのしいどうでの活動を含めて今年度で丸4年を経過しました。庁舎内職員の皆様の昼食を提供し続ける中で、できるだけ皆様に喜んで食べていただけるメニューを考えながら、毎日、製造作業に取り組んでいます。

北海道クリーンアクトでは、これまで既に行なっているおしぼり製品の検品作業の他、回収してきたおしぼりを汚れに応じて仕分けを行なう作業を創出していただきました。この作業の創出により、新たに4名の利用者さんの受け入れを行なっていただいています。仕分け作業は、12月からの開始をして、まだ半年も経過していませんが、商品品質の向上に貢献できるように取り組みを続けています。

2. 実施事業

■ 就労継続支援事業B型 定員20名 現員14名

3. 平成30年度の利用状況

■ わくわくどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数									14	14	14	14	56	61.2%
開所 日数									24	23	23	25	95	
延利用 回数									303	283	274	302	1,162	

平均実利用数12.3名（小数点第2位以下切り上げ）

12月開設時、14名の登録で利用開始されています。定員を満たしていませんが、新たな利用者の受け入れの可能性を拓けるチャレンジができました。

■就労継続支援事業 B 型（定員 20 名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数									14	14	14	14	56	61.2%
開所 日数									24	23	23	25	95	
延利用 回数									303	283	274	302	1,162	

平均実利用数 12.3名（小数点第2位以下切り上げ）

12月より事業開始しました。

4. 取組みの概要

■利用者支援

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

・「そらかぜ食堂」の運営

4年を経過し、空知総合振興局の職員の皆様を中心に食事の提供を行なっています。これまでの営業で蓄積したデータをもとに、売れ筋の期間商品を残し、新商品の開発、販売も進めています。少しずつではありますが、振興局の食堂として認知も広がってきて、時には地元の高校生が「安くて、美味しい」と口コミで広がり、立ち寄ってくれることも出てきたりしています。お客様の声に耳を傾け、味付けや盛り付けなど、定期的に打ち合わせをしながら飽きさせないお店作りをしています。

□施設外就労支援

・北海道クリーンアクトでの施設外就労作業

既に取り組んでいたおしぼり製品の検品作業に加え、新たな作業として回収されたおしぼりを仕分ける作業を始めました。おしぼりは、工場からお客様のお店へ出荷され、お店で使用されたおしぼりは回収して工場へ戻ってきます。戻ったおしぼりは、きれいにクリーニングし、またお客様のもとへと出荷されます。より質の高いおしぼりを提供するために、工場に戻ってきたおしぼりの汚れ具合を見極めて仕分けする作業をわくわくどうの新たな作業として始めています。お客様が気持ちよく使っていただけるように目を凝らしてみんなで仕分け作業を行なっています。

■権利擁護

・利用者さん14名の少人数でのグループということもあり、一人ひとりの人間関係など、相談等の対応を細かく行なえています。作業の忙しい限られた時間の中で答えが出るものとそうでないものがありますが、支援上の課題を共有することで職員相互に権利擁護の機会にもなっています。

■ 苦情解決

今年度の苦情・要望受付は0件でした。新事業を開設するにあたり、利用契約の変更等でご家庭と連絡を行なった際に、ご家庭での希望や心配事などを聞くことができました。連絡帳だけでは意思疎通が十分に行なえない部分は、直接、送迎時の時間や電話連絡を行ない、コミュニケーションをとることの大切さを実感しています。利用者さん及びご家族が安心して利用できるための環境作りなど、今後も引き続き、より良い支援環境を整えます。

■ 災害対応・事故対策

法人の事業所防火・非常災害対策計画にわくわくどうも追加をしています。開設時に消防設備等の設置を行ない、消防にも検査に入ってもらっています。避難訓練については、今期（12～3月）は、行なうことができませんでした。冬期間の雪の状況も経験できましたので、来期は年2回の避難訓練を実施していく予定です。建物の2階部分のみを使用した事業所のため、同建物を使用している業者全体で避難訓練を行なうこととしています。

■ 年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■ 諸会議

- ・事業所会議・・月1回実施。情報の共有を図るため実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。
- ・各担当者会議・・全国の福祉事業所間での活発な販売や購入に向けた内需拡大、そらかぜ食堂の運営、企業就労者支援、利用者昼食提供の質の向上、それぞれの目的に合わせた担当者が出席し、諸会議を月1回実施しています。

■ 健康管理

健康診断を年1回実施し、疾病の早期発見に努めています。

■ 職員研修

年度内に参加した外部研修等に関しては法人の事業報告参照。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数						
総支給額						
平均額						

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数			14	14	14	14	56
総支給額			307,600	407,100	450,700	784,800	1,950,200
平均額			21,971	29,079	32,193	56,057	34,825

5. 課題

開設したばかりですが、たのしいどうやあかるいどうから作業種を引き継ぐことができ、利用者さんに安定して工賃をお支払いできています。

食堂においては、毎年、人事で職員さんが入れ替わる度に利用状況が変わってくるので、新年度もまた心機一転、新たな気持ちでお客様に食堂のアピールをしていきたいと思えます。さらに新年度は、食堂の委託を受けて5年目を迎えます。委託契約期間満了を迎えるため、新たにプロポーザルで選定される必要がでてきます。再度、委託がいただけるように努めなければなりません。

北海道クリーンアクトでの施設外就労では、現在、半年を満たない経験で1年間ワンシーズンの仕事の波を経験できておりません。外食産業のお客様の流れと同様におしぼりのニーズも変わってくるので、一定の作業とはならない部分もありますが、毎年業績は上がっている状況にあります。会社としても成長を進めている中に障がいのある方たちの「働く場」を創出していくことは、想いだけではかないません。企業の状況と障がいのある方たちの力とをすり合わせて、無理のない仕組みづくりをしていくことを課題として感じています。

就労事業の報告

■事業班名：そらかぜ食堂

1. 取組みの概要

空知総合振興局食堂の運営も早いもので4年目を迎えました。昨年度の運営を振り返ってみて、集客増と楽しみのある来店を目指し、新商品のメニューの展開や季節イベントの企画など、お客様を飽きさせない食堂作りと、明るく楽しい職場作りに努めました。



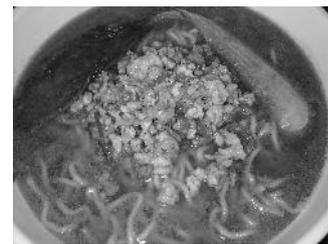
明太子パスタ



豚 井



焼 鳥 井



担々麺

2. 成果

年間来客数は、19,945人。売上げ941万円となりました。今年度は、9月におきました北海道胆振東部地震が起き、食堂も一時休業を余儀なくされました。幸いに震災による食堂での被害はなく、電気の復旧と共に営業を再開させることができました。しかし、震災への対応を求められる行政機関として庁舎内の職員の方は対応に追われ、9月のそらかぜ食堂の営業成績としましては、月の2/3まで売り上げが下がってしまいました。

翌月には、地震の影響も落ち着きを取り戻し、地震前のように、職員の皆様が昼食を摂っていただけるような場所へ戻ることができています。

新商品は概ね1か月ほどで需要は落ち込むこともわかり、間を空けず毎月メニューの提案を行なう重要性も知ることが出来ました。

30年度年間ランキング

1位～B定食	(24.7%)
2位～A定食	(23.3%)
3位～カツカレー	(4.0%)
4位～カレーライス	(3.1%)
5位～しょうゆラーメン	(2.1%)
6位～みそ油ラーメン	(1.9%)
7位～ソースかつ井	(1.8%)
8位～特盛ざるそば	(1.7%)
9位～カレーそば	(1.3%)
げそ天そば	(1.5%)
かけそば	(1.3%)
(%)はオーダーに占める割合)	

3. 課題

職員の方々の福利厚生施設としての使命もあり、提供価格を低めに設定していることで、利益が出にくい運営スタイルであることが課題です。仕入れ等の工夫は今後も必須です。また、早くて、安く、美味しいランチを安定して運営していくためには利用者さんの作業のスキルアップが必要となってきます。新しく利用者さんも増え、役割を少しずつ増やしてもらえるように支援をしていきたいと思っています。昼時は大変忙しいお仕事ではありますが、食品事故やケガをしないように利用者さんとスタッフが力を合わせて頑張っていきたいと思っています。

■事業班名：施設外就労

1. 取組みの概要

市内にあるおしぼり工場（北海道クリーンアクト）にて、利用者さんが行なう作業を業務委託で請け負っています。工場内の作業内容は、おしぼり分別仕分け→洗濯→おしぼり巻き→包装→検品という流れの中で、「おしぼり分別仕分け」と「検品」の工程を委託してもらっています。「おしぼり分別仕分け」については、わくわくどうの利用者を受け入れるため、企業と法人とで話し合いを重ね、機械や作業環境を整え、4名の作業場を創出していただきました。



おしぼり分別仕分け作業
のために導入した機械

2. 成果

検品作業では、経験者が中心に作業を進めておりましたが、新たに加わった利用者さんにも少しずつ経験していただき6名中5名の方に検品作業を行なえるようになってもらっています。

おしぼり分別仕分け作業には、施設外就労の利用者さん全員で取り組み、企業さんから求められる作業量を何とかクリアできるようになってきています。仕分け作業後の洗濯で落とせる汚れかどうかを見極めることは、簡単に身に付けられる力ではありませんが、職員の方に指導いただきながら進められている状況です。



おしぼり分別仕分け作業
の様子

3. 課題

おしぼり検品作業や分別仕分け作業は、利用者さんの作業能力が高まるにつれ、効果を発揮しているように感じます。しかし、作業量が企業さんでも想像できないほどの量になることもあり、処理能力を超えることも出てきているので、企業さんとの調整や企業とお客様との調整を密に行ない利用者さんの仕事量としての範囲を決める必要性を感じています。

企業の中で必要とされる存在としてありつつも、雇用されるまでには至っていない利用者さんの作業を無理のない範囲またはそれに値する対価をいただけるように企業さんと引き続きすり合わせが必要な課題となりそうです。

平成30年度 歩~夢 事業報告

1. 30年度事業の総括

平成30年度の運営については、グループホーム「いなほが実り荘」の賃貸契約終了に伴い29年度末より準備を進めてきたグループホーム「みないい荘」が開所されています。

宿泊体験の希望は例年と比べ全体的に利用が少なく感じられましたが、将来的にグループホームでの生活を考えている方が多数見学や相談がありました。年度当初は、空き室の関係で女性のための宿泊体験を実施していましたが、8月からは男性の宿泊体験を再開しました。

余暇支援の面では、定例の行事のほかに、夏の盆踊り時期に子どもたちを対象に利用者さんと一緒にお化け屋敷を実施し、冬はワカサギ釣りを体験した方もいました。

9月にあった北海道胆振東部地震の時には、岩見沢市も震度5強の揺れを観測し、その後の全道的な停電への対応として、入居している皆さんを「たのしいどう」に移して臨時の避難所として生活支援を展開しました。また、ご家族へも安否の連絡を取り不安の解消に努めました。幸い人的被害はありませんでしたが、今後の非常災害対応への教訓となりました。

今後も余暇活動の充実と、一人一人個別の暮らしの質の向上に努め、人権擁護や虐待防止に一層取り組み、日中活動との連携を重視して事業を行ないたいと思います。

2. 実施事業

共同生活介護一体型事業所（合計定員40名）※宿泊体験4名含む

春が来た荘	定員5名	現員4名	(宿泊体験 1名)
夏色荘	定員5名	現員5名	
秋いろいろ荘	定員5名	現員3名	(宿泊体験 2名)
冬暖か荘	定員5名	現員4名	(宿泊体験 1名)
ハラダハイツ	定員2名	現員2名	
コーポハラダ	定員2名	現員2名	
桜なごみ荘	定員4名	現員4名	
もみじ色づき荘	定員5名	現員5名	
ふきのとう	定員3名	現員3名	
みないい荘	定員4名	現員4名	



3. 平成30年度の利用状況

※定員40名（宿泊体験5名：4月～3月）※年間365日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	40	40	42	40	37	40	42	39	38	39	39	40	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用 回数	1,082	1,051	1,092	1,125	1,031	1,060	1,084	1,038	1,037	1,010	942	1,014	12,566

※平均実利用者数 34.5名（小数点第2位以下切り上げ）

※平成30年4月から3月までに男性3名が新たに入居

平成30年4月から3月まで退所された方は男性1名。

企業就労されている方も含め、長期の帰省をされる方が少なくなって来ています。ご家庭との連携を念頭において、今後も一層余暇時間の充実など生活支援の重要性が増してくるものと思われます。

※宿泊体験

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	4	4	6	3	1	4	5	2	1	2	2	3	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用 回数	17	19	13	8	3	23	15	6	3	6	6	7	126

昨年度に比べ、宿泊体験の利用は減少しています。理由として高等養護学校の体験実習の受け入れが少なかった事、宿泊体験を経て正式な入居に切り替わった方もいた為と考えています。

宿泊体験の相談としては、家庭状況を考えた将来的利用に向けたケースや、学校からの卒業後の利用相談ケース、行政機関からの緊急一時保護のケースの相談があり、それぞれ対応をさせて頂きました。

ご家族の高齢化に伴い宿泊体験の希望も増えていくのではないかと考えていますが、平成30年度は、男性住居の空部屋の確保が難しく女性のみへの対応が中心でしたが、年度途中から空き部屋が出たことで男性の体験受け入れも対応できるようになりました。

今後、少しでも、皆さんの希望に答えられるよう居室の確保については検討していきたいと思っております。

4. 取組みの概要

■利用者支援

昨年度に続き、南町のエリアと市内中心部を拠点とした支援を行なっています。職員の動きも互いに連絡を取り調整を行う事で効率よく支援ができるように工夫をし、少しずつ生活環境を整えることができました。利用者さんの加齢などにより食事や入浴などの基本的な日常生活動作に手添えや介助などが必要なことが増えてきています。将来の住環境整備も課題として検討していく必要を感じています。日々の挨拶や町内会の清掃活動を行なっている中で、皆さんから少しずつ気にかけて頂くことも増えてきたように思います。今後も継続して地域社会の一員として役割を行えるように取り組みます。

■権利擁護

前年に引き続き、世話人を含むすべての歩〜夢スタッフを対象に、権利擁護や虐待防止についての内部研修を実施しました。今年度、職員の外部研修への参加が少なくフィードバック研修する機会がありませんでしたが、常に専門職としての知識や意識の向上に努めています。

定例の会議内で、ニュースなどで報じられた虐待の事例、福祉制度の情報などを施設長より話され、パートの世話人に至るまで一定の学習の機会を持たせています。

■苦情解決委員会

今年度の苦情件数は1件、要望が0件となっています。苦情については、利用者さんから職員の言葉遣いに関する内容について上りましたので、現場長の方より対象職員に利用者さんとの距離感や言葉の使い方について指導を行なっています。

又、自分から訴えられない方については、日々の会話から内容をくみ取り、必要に応じて時間を取り聞き取りなどの対応を行なうようにしています。

■感染症対策

感染症対策としては、今年度もインフルエンザの予防接種を行なっています。長期の帰省中インフルエンザにかかったため戻るのが遅くなった方や、企業就労されている方がかかったケース、また、帰省先のご家族の方がインフルエンザになり帰省が中止になる方もいましたが、その後グループホーム内で大きく広がることはありませんでした。

他の感染症につきましても、毎日うがい、手洗いの声掛けや予防接種、加湿・換気などの対策のおかげか、グループホーム内で大きく流行することはありませんでした。今後も継続して行ない、食中毒やその他の衛生面についても対策を講じていきたいと思っています。

■災害対応・事故対応

今年度は、9月5日に大型台風、9月6日に胆振東部地震がありました。この地震による怪我人はいませんでした。電気が使用できない状態でしたので、各住居で生活を行なう利用者さんの不安やご家族の不安、巡回の難しさなど様々な状況を考え9月6日～9月10日の朝まで「たのしいどう」「あかるいどう」で避難生活を送りました。いつもとは違う不自由な状態で数日間避難生活を過ごすことは、大変なストレスであったと思いますが、なるべく疲れや不安を抱えないよう支援に取り組みました。



春の防火訓練では、岩見沢消防署に行き敷地内にて消火器訓練、夕方には各住居にて避難訓練を行ないました。いつもとは違う流れで訓練を行なった為、全員が体験でき、真剣に取り組むことができました。

秋は実際の地震災害を思い出しながら、緊急地震速報を流し隠れるタイミングや、逃げるタイミング、何に注意をしなければならないのかを再確認させていただきました。

胆振東部地震があり実際に大きな地震を体験したことにより例年よりも、避難訓練に対しての意識が強くなったように感じました。



消火器訓練



避難訓練

事故対応については、グループホーム内で、玄関の下駄箱に焼け焦げた靴を発見しています。住居内の入居者の方に状況の確認を行なっています。今回は重大な事故の可能性もあったことから、厳重に対処をしました。この件につきましては、事故として振興局に報告を行なっています。

■年間行事

平成 30 年度	内 容
4 月 1 日	みないい荘開所
4 月 16 日	誕生会（各月行っている）
4 月 20 日	春の消防査察
4 月 29 日	歩～夢春の温泉外出 沼田町
5 月 1 日	宮島沼バードウォッチング
5 月 5 日	GW バーベキュー
5 月 30 日	消火器訓練
6 月 12 日	避難訓練
7 月 16 日	新日本プロレス観戦外出
7 月 22 日	ジャズライブ
8 月 10～11 日	歩～夢お盆旅行
8 月 12 日	西町町内会子供盆踊り
9 月 15 日	プロ野球観戦
9 月 17 日	秋のバーベキュー
9 月 23 日	あかとき学園祭
10 月 7 日	札幌市民防災センター 温泉
10 月 27 日	赤い羽根共同募金（イオン岩見沢）
10 月 28 日	ティーボール練習試合（岩高養）
11 月 13 日	災害想定避難訓練
11 月 23 日	ティーボール交流試合（雪の聖母園）
12 月 7 日	歩～夢忘年会（北村温泉）
12 月 16 日	ティーボール大会
12 月 31 日	年越し外食
1 月 1 日	初詣
1 月 1 日	温泉外出（月形温泉）
1 月 2 日	初売り買い物
1 月 14 日	札幌外出
2 月 9 日	わかさぎ釣り
2 月 16 日	温泉外出（北のたまゆら）

30年度の余暇活動としては、12月16日に「ティールボール北の甲子園」が札幌ドームにて開催され、今年度は、メンバーも増え、1年間の練習の成果を十分に発揮し、多くの方の応援をいただき、目標にしていた2勝をすることが出来ました。その結果今年度はトーナメントでベスト8に入ることが出来ました。年度も、大きな目標を持ち現在も練習に励んでいます。



バードウォッチング



春の日帰り温泉外出



プロレス観戦



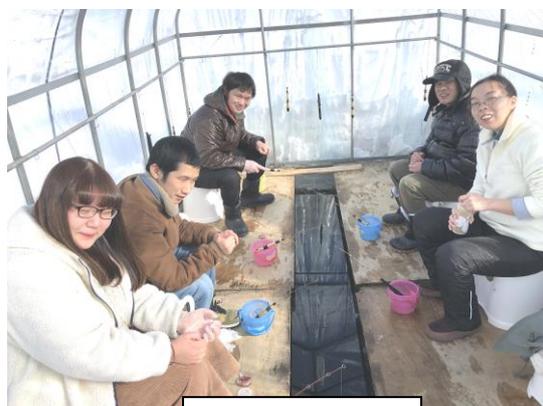
バレーボール観戦



ジャズライブ



お盆旅行



わかさぎ釣り

今年度は、利用者さんの参加が多くなるように外出計画を多く企画しました。また、利用者さんにどの企画に参加したいかを選べるようにバレーボール観戦、プロレス観戦、野球観戦、ジャズライブなど4つの選択肢を設けました。

また新しい企画としては、わかさぎ釣りに挑戦しました。

全員の希望を叶えることは難しいですが、今後も数名ずつでも、本人さんたちの希望に添える活動が出来たらと考えています。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。
- ・事業所会議・・・全体会議のほかに月1回実施。主に常勤の生活支援員を中心に、各利用者さんの支援上の課題や、設備、運営の仕方などの協議を行ないました。
- ・世話人会議・・・月1回実施。世話人を中心に、法人全体会議や事業所会議での決定事項の周知や、個別に抱える課題の共有、宿泊体験や特に注意が必要なケースについての話し合いを行ない、支援がブラインドにならないように努めました。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。
- ・ケース会議・・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。
- ・企業就労担当会議・・・現在企業就労されている方の定着支援について情報を共有し、支援の方向性について話し合いを行なっています。
- ・給食会議・・・各事業所担当で翌月の献立について調整をしています。
- ・権利擁護担当者会議・・・各事業所の苦情解決受け付け担当者と月1回苦情内容や権利擁護についての打ち合わせや確認事項を話し合っています。

■健康管理

定例の健康診断を実施しています。再検査が必要な方などのデータを嘱託医に診て頂き、相談をさせてもらいました。昨年度に続き、体重増加や血圧が高めで再検査を行なった方が多く、毎日血圧を測り日々の状態を確認し対応をしています。また年々服薬を必要とする利用者が多くなっており、日々の服薬の確認、管理がとても重要になっていると思いました。

徐々に高齢期に向かわれている方も多くなってきたため、目の病気、生活習慣病にも気を配り適切な対応を行なっていく必要があると思いました。

また、岩見沢市より年齢を対象とした人間ドックなどの案内が来た際にも受診の声がけを行うよう支援しています。

■支援記録

今年度は、健康診断などの結果から健康面に関する記載が増えたことや、全体日誌の記録や引継ぎが一層重要な支援情報であることを再確認しました。記載内容をエリアごとに分けたことで、確実に記録が残せ、情報共有がより確実になるように作成を行ないました。

また、昨年度に引き続き、日中活動との連携の為、連絡帳を用いて生活の様子や体調の変化などについて記載を行なっています。

家庭と調整については、数名の利用者さんに対し連絡帳を使用してお家庭とのやり取りを行ない、日々の体調の変化などについてお伝えをしています。

また、歩～夢担当者携帯や夜勤携帯の番号の周知をお伝えすることで、家族の方からの連絡も多くなり以前に比べても連絡のやり取りが多くなったように思います。

■職員研修

内部研修については、定例の世話人会議の中で、主に権利擁護や障がいについての、研修を行ないました。

その他は法人の研修計画に基づき研修参加を進めています。

参加した主な外部研修
平成30年度全道施設長セミナー
全国知的障害関係施設長等会議
親なきあとセミナー
全道知的障がい関係職員研修会
地域支援セミナー
幹部職員研修会

■施設整備状況

古い建物や設備の維持管理が大きな課題となっています。外壁や屋根などの大掛かりな営繕は時間と費用が掛かり、また、工事中の仮住居の確保の問題もあるため、計画的に進めていく必要があります。今後の利用ニーズとしては、バリアフリーや高機能な設備の整った拠点機能のあるグループホームの整備を検討したいと考えています。

防犯対策については、各グループホームに、カメラ付きインターホンを設置し不審者の確認ができるようにしています。

1. 30年度事業の総括

岩見沢市より指定を受けて実施している日中一時支援事業楽しくは、三笠市、栗山町と委託契約をし、様々な余暇活動を実施しました。30年度より、定員を15名より5名増やし、20名の定員へと変更しています。多くの希望者を少しでも受け入れ、沢山の方へ充実した余暇を支援できるよう、取り組みを行なっています。



季節に合わせた制作活動の様子。

2. 実施事業

□日中一時支援事業 定員20名（岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく）

3. 平成30年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	29	40	44	32	34	40	30	22	29	33	30	32	
延利用回数	70	75	120	72	61	88	58	37	77	81	77	89	905

土曜午後の時間を活用した余暇支援を年間46回実施しました。

4. 取り組みの概要

季節に因んだ制作活動やお菓子作り等をメニューに取り入れ、利用者さんが楽しく参加出来る様、余暇時間の充実を目指して実施しました。利用者さんのメニュー企画の要望も取り入れ、体育館で体を動かすメニューや市内のイベント参加も積極的に取り入れていきます。外部講師を招いて行なうメイク教室は毎年好評を頂いており、利用者さんは、恥ずかしがりながらも綺麗になっていく自分の姿を毎回楽しみに、参加されている姿が見られています。一人ひとりのメイク技術も身に付いてきています。

5. 成果

季節毎のメニューに応じた外出や調理を提案することで、利用者さんが参加の有無を選択し、様々な取り組みに興味を持って頂けたと感じています。また、メイク教室では、毎年ご協力いただいている平田先生にご指導頂き、ハロウィンに因んだメイクをしてハロウィンパーティーを行なっています。男女に関わらず参加することが出来、メイクを楽しん



ハロウィンメイクをして、お菓子パーティーを行ないました。

でいる様子が伺えています。今年度も楽しくでのご縁が、利用者さんの活動や余暇の充実へと結びついた一年でした。

6. 課題

メイク教室や体を動かす活動の支援も含め、継続して行なうことで積み上げていけるメニューは、利用者さんにとっても有意義であると思われます。内容に飽きが出ない様、市内のイベント情報の収集や普段なかなか経験の出来ない活動を楽しくを通して取り入れていく事で、興味や余暇の充実、満足感へと繋がるのでは感じています。

平成30年度 地域生活支援事業 そらなび 事業報告

1. 30年度事業の総括

空知の風の他、他法人を利用されている方の計画相談も行ないました。福祉サービスの支給決定を受けるために必要なサービス等利用計画の作成を担当しています。指定特定相談の制度がスタートしてから、利用者への支給決定の手続きが進み、一定の目途がついたこと、指定特定相談支援事業を行なうにあたり、相談専門員の確保が困難であること、年間の計画作成が標準作成件数に満たないことなどから、今年度いっぱいをもって休止させて頂く運びとなっている。

2. 実施事業

指定特定相談事業

3. 平成30年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	3	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	7

4. 取組みの概要

法人内外問わず、事業所を利用される方から定期的に聞き取りを行ない、サービス利用に関して通所先等と円滑な関係を維持できる様に、必要に応じて橋渡しの役割を担いました。利用者さんのニーズに合った福祉サービスに結びつくように提案を行ないました。休止に伴い、現在担当している利用者さんについて、岩見沢市に複数ある同じ相談支援事業所へ引継ぎ、当事者への説明や行政への届け出を実行しています。

5. 成果

7名の利用者さんの福祉サービスの更新や新規利用を無事に行なうことが出来ました。